

## I

## 共同研究

## 1. 基幹研究

## 【近世における蔵書形成と文芸享受】

研究代表者：大高洋司

研究分担者：神作研一、山本和明、入口敦志、高松亮太、井上泰至（国文学研究資料館客員教授・防衛大学校教授）、芦田耕一（島根大学名誉教授）、飯倉洋一（大阪大学教授）、伊藤善隆（湘北短期大学准教授）、井上敏幸（佐賀大学地域学歴史文化研究センター特命教授）、大石房子（清泉女子大学非常勤講師）、大谷俊太（京都女子大学教授）、大谷節子（神戸女子大学教授）、大庭卓也（久留米大学准教授）、勝又 基（明星大学准教授）、加藤弓枝（豊田工業高等専門学校准教授）、亀井 森（鹿児島大学准教授）、川平敏文（九州大学准教授）、菊池庸介（福岡教育大学准教授）、久保田啓一（広島大学教授）、倉島利仁（静岡学園高等学校教諭）、黒石陽子（東京学芸大学教授）、進藤康子（九州情報大学非常勤講師）、田中則雄（島根大学教授）、中川 豊（帝塚山大学講師）、野本瑠美（島根大学講師）、二又 淳（明治大学非常勤講師）、原 豊二（米子工業高等専門学校准教授）、菱岡憲司（有明工業高等専門学校講師）、森澤多美子（静岡県富士見高等学校教諭）、盛田帝子（大手前大学准教授）、山崎真克（比治山大学准教授）、若木太一（放送大学長崎学習センター客員教授）

## (1) 概 要

7カ所の所蔵先（＊）を対象とする研究会を2度開催した。本年度は主としてテーマ別の成果報告を行い、第2回研究会では各チームの3年間の活動を総括すると共に、「分類」について再考する場を設けた。本研究の最終報告は、平成26年度調査研究シンポジウム（「江戸の〈知〉－蔵書の種々相を考える－」、パネリスト4名、平成26年5月29日開催）において実施した。

＊八戸市立図書館南部家旧蔵本（青森県）・矢口丹波記念文庫（群馬県高崎市、矢口家〈八幡八幡「やわたはちまん」神社〉）・新日吉神宮蘆庵文庫（京都市、新日吉神宮）・祐徳稲荷神社（佐賀県鹿島市、鍋島家）・三島市郷土資料館勝俣文庫（静岡県、勝俣家）・富加町郷土資料館（岐阜県、平井家）・手銭家（島根県出雲市）

## (2) 活動記録

〔研究会〕

## ◎第1回研究会

平成25年6月7日（金） 国文学研究資料館オリエンテーション室

「八戸」チーム

- 1 二又 淳「南部家旧蔵本 俳諧と戯作を中心に」
- 2 大高洋司「八戸南部家の読本収集」

テーマ「実録」

3 田中則雄「地方における実録の位置－山陰地域の事例に即して－」

4 菊池庸介「実録の流布・享受について」

#### ◎第2回研究会

平成25年12月21日(土) 国文学研究資料館オリエンテーション室

テーマ「分類」

1 各チームの活動報告

2 松野陽一(ゲスト講演者)「八戸南部家旧蔵本の分類について－和歌を中心に－」

平成25年12月22日(日)

テーマ「芸能」・「漢学」

3 大谷節子「近世の謡伝授－美濃加治田松井屋酒造資料館蔵謡本調査から－」

4 黒石陽子「矢口家の浄瑠璃本について」

5 大庭卓也「鍋島直郷の蔵書と河口静香」

#### [資料調査]

八戸市立図書館(5/28-30, 3/7-10, 3/18-20)、富加町郷土資料館(8/9-11, 11/3-4)、矢口丹波記念文庫(8/29-31)、手銭家(9/12-14 13日は研究会)、以上各チーム。

#### [展示・シンポジウム]

◎研究成果講演会「町の文化の底から」(主催 富加町教育委員会)

平成25年11月4日(月) 富加町郷土資料館・タウンホールとみか

1 神作研一「ようこそ、江戸の加治田へ」

2 講演：大谷節子「京と加治田をつなぐもの－謡本に記された交流の軌跡－」

3 座談会：「蔵書探検 ～広く、深く、面白く～」(神作研一・中川 豊・加藤弓枝・島田崇正〈学芸員〉)

◎平成26年度調査研究シンポジウム「江戸の〈知〉－蔵書の種々相を考える－」

平成26年5月29日(木) 国文学研究資料館大会議室 参加人数概数：70名

大庭卓也「佐賀鹿島藩蔵書に見える漢文学資料」

盛田帝子「二条派から古学派へ－堂上歌学の変容と地方への伝播－」

伊藤善隆「俳諧資料の特性－「近世における蔵書形成と文芸教授」という視点から－」

井上康至「蔵書調書から見えてくる文芸享受の風景－身分社会における自己存在証明の視点から－」

#### [研究成果]

芦田耕一「大社地方における文芸環境－「まとゐ」を中心に－」、『嶋大國文』34号、pp. 49-60、平成26年1月、査読無

原 豊二「山陰地域の三十六歌仙絵－手銭家所蔵資料を始発として－」、『国文学研究資料館紀要文学研究篇』第40号、pp. 153-176、平成26年3月、査読無

国文学研究資料館基幹研究「近世における蔵書形成と文芸享受」矢口丹波記念文庫担当チーム

「矢口丹波記念文庫蔵書目録」、『調査研究報告』第34号、pp. 41-90、平成26年3月、査読無

紅林健志「高崎矢口家における筆写活動」、『調査研究報告』第34号、pp. 91-106、平成26年3月、査読無

大高洋司「八戸南部家の読本収集」、『読本研究新集』第6集、pp. 137-155、平成26年5月、査読有

※本研究は、平成25年度終了のため、平成26年度に行ったシンポジウム及び研究成果を併記し

ている。

## 【日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉】

研究代表者：寺島恒世

研究参加者：海野圭介、落合博志、小林健二、齋藤真麻理、大野順子、浅田 徹（お茶の水女子大学教授）、石澤一志（目白大学専任講師）、岩城賢太郎（武蔵野大学准教授）、神楽岡幼子（愛媛大学教授）、久保木秀夫（鶴見大学准教授）、小助川元太（愛媛大学准教授）、小林一彦（京都産業大学日本文化研究所所長）、佐々木孝浩（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授）、鈴木 元（熊本県立大学教授）、妹尾好信（広島大学教授）、高橋秀城（大正大学非常勤講師）、高橋悠介（神奈川県立金沢文庫学芸員）、徳岡 涼（熊本大学文学部附属永青文庫研究センター客員准教授）、中野貴文（熊本大学准教授）、福田安典（日本女子大学教授）、三村晃功（京都光華女子大学名誉教授）

### (1) 概 要

本年度は、研究会を2回開催し、資料調査を継続的に実施した。研究会は、4チームから各1人、及び、個別課題担当者のうち、3名が研究発表を行い、共同討議を行った。続いて、チームごとの討議を行い、今後の計画を検討した。資料調査は、研究チームごと及び個別課題担当者ごとに進めた。

### (2) 活動記録

〔研究会〕

#### ◎第1回研究会

平成25年6月7日（金） 国文学研究資料館第1会議室

- 1 小助川元太 「対馬歴史民俗資料館宗家文庫蔵『八幡大菩薩御縁起愚童記』について」
- 2 佐々木孝浩 「室町後期地方武士の和歌活動―大内氏周辺の和歌短冊とその書風をめぐって―」
- 3 徳岡 涼 「細川幽斎と飛鳥井家」
- 4 福田安典 「伊予宇和島藩の文化と書物」
- 5 共同討議

#### ◎第2回研究会

平成25年12月25日（水） 国文学研究資料館オリエンテーション室

- 1 妹尾好信 「仙台伊達藩における王朝文学享受―猪苗代正益著『源氏栄鑑抄』を中心に―」
- 2 齋藤真麻理 「天台宗談義所の説話と学芸」
- 3 小林一彦 「中世の夫木和歌抄」
- 4 共同討議

〔資料調査〕

福田安典 4/12 国文学研究資料館（資料調査）

高橋秀城・高橋悠介・落合博志・齋藤真麻理 8/22 東京大学史料編纂所（文献調査）

大野順子 10/12～13 関西大学千里山キャンパス（情報収集）

小林一彦 11/28～30 東奥義塾図書館（資料調査）

浅田 徹 1/18 富山市立図書館本館（資料調査）

小山順子 1/18～19 天理図書館（資料調査）

佐々木孝浩 2/11～14 山口県立文書館・山口県立図書館・下関市立長府図書館（文献調査）

福田安典	2/18～21	愛媛県立大学・愛媛大学・宇和島伊達文化保存会（打ち合わせ・資料調査）
石澤一志	2/19～20	島原図書館（資料調査）
小林健二	2/19～21	愛媛大学・宇和島伊達文化保存会（打合・資料調査）
岩城賢太郎	2/19～21	宇和島伊達文化保存会（資料調査）
高橋秀城	2/23～26	大谷大学図書館・関西大学図書館・大阪宝珠院（文献調査）
鈴木 元	3/3～5	舞鶴中央図書館・国文学研究資料館（文献調査）
野本瑠美	3/6～7	早稲田大学図書館（文献調査）
中野貴文	3/7～9	東京大学総合図書館・明星大学図書館（文献調査）
小山順子	3/9～10	龍谷大学附属図書館（資料調査）
妹尾信好	3/13～15	宮城県図書館（文献調査）
寺島恒世	3/15～16	出水市立歴史民俗資料館・出水市箱崎八幡神社（資料調査）
久保木秀夫	3/16～17	熊本大学附属図書館（資料調査）

#### 〔研究成果〕

妹尾好信・白石理穂子、『『源氏栄鑑抄』の基礎的研究』、『広島大学大学院文学研究科論集』、第73巻、13頁～31頁、2013年12月、査読無し

### 【民間アーカイブズの保存活用システム構築に関する基礎研究】

研究代表者：大友一雄

研究参加者：青木 睦、太田尚宏、西村慎太郎、加藤聖文、種村威史、浅倉有子（国文学研究資料館客員教授・上越教育大学教授）、久留島浩（国立歴史民俗博物館教授）、三宅正浩（福島大学准教授）、岩淵令治（学習院女子大学教授）、早川和宏（桐蔭法科大学院教授）、平井義人（大分県立芸術緑丘高等学校校長）、白井哲哉（筑波大学教授）、西向宏介（広島県立文書館副主任研究員）、福島幸宏（京都府立総合資料館新館担当副主査）、小川正人（北海道立アイヌ民族文化研究センター研究主幹）、菅野直樹（防衛省防衛研究所主任研究官）、降幡浩樹（松代文化施設等管理事務所学芸員・係長）、山中さゆり（松代文化施設等管理事務所専門員）

#### （1）概 要

日本における記録史料・文書類の伝来では、公文書に加えて、民間に発生・管理されてきたものが多数を占める点に特徴があり、これらの保存・管理・活用に関する学術的な研究は不可欠である。本研究では、民間アーカイブズが有する特質を追究するとともに管理上の課題を具体的な実践モデルの調査を通じて検証し、保存活用システム構築へ向けた基礎的な分析成果の蓄積を図る。このため、「民間アーカイブズ論構築班」「民間アーカイブズ調査研究班」の2班により調査研究活動を行い、前者では、調査、伝来、収集整理、編成記述、情報公開、公共活用、物理的保存管理という7つの活動を強く意識して民間アーカイブズに関する研究会を開催し議論を深めた。後者では、実践モデルである長野県松代地域と東京都多摩地域の民間アーカイブズを調査し、保存についての地域連携構築のあり方に関する検討を行った。

#### （2）活動記録

##### 〔研究会〕

研究組織メンバーなどを中心に4回開催した（一部は科研費による研究課題との合同研究会）。

◎第1回研究会（民間アーカイブズ論関係研究会）

平成25年6月1日(土) 国文学研究資料館 第2会議室

- 1 大友一雄「戦後の学術資料保存の取り組みと国立史料館構想」
- 2 早川和宏「民間アーカイブズの保存活用をめぐる法的課題ー論点メモとしてー」

◎第2回研究会(民間アーカイブズ論関係研究会)

平成25年8月31日(土) 国文学研究資料館 第2会議室

- 1 加藤聖文「公共記録としての民間文書」
- 2 菅野直樹「防衛研究所所蔵陸海軍『一般史料』について」

平成25年9月1日(日) 国文学研究資料館 第2会議室

- 1 小川正人 「アイヌ文化・アイヌ史に関するアーカイブズについて」
- 2 平井義人 「高等学校におけるアーカイブズ教育について」
- 3 西村慎太郎「地域におけるアーカイブズ調査の方法と課題」
- 4 太田富康 「電子媒体の民間アーカイブズ」

◎第3回研究会(民間アーカイブズ論関係研究会)

平成26年1月11日(土) 国文学研究資料館 第2会議室

- 1 西村慎太郎「目録記述を考えるー民間所在資料の場合ー」
- 2 新井浩文 「地方文書館と地域史料保存の現状と課題」

平成26年1月12日(日) 国文学研究資料館 第2会議室

- 1 工藤航平「北海道における民間アーカイブズの特質と保存管理ー北海道伊達市での取り組みからー」
- 2 太田尚宏「今後の研究計画と論点について」

◎第4回研究会(松代地域モデル調査関係研究会)

平成26年3月1日(土) 国文学研究資料館 第2会議室

- 1 青木 睦「松代藩文書の管理・保存ー信濃国松代真田家文書目録(その12・完)における編集過程での情報整備についてー」
- 2 福田千鶴「藩主生母の格式をめぐる意思決定に関わる史料空間」
- 3 福澤徹三「官僚制機構の末端としての村ー藩地域研究とアーカイブズの視点ー」

館内研究会(当基幹研究を推進するための館内研究者による研究会)

◎第1回推進研究

平成25年5月8日(木) 国文学研究資料館 第4会議室

- 渡辺浩一「民間アーカイブズの国際比較ー契約・紛争解決の文書をめぐってー」  
青木 睦「『渋沢敬三からのメッセージ』展での多摩地域との連携の試みー回遊展示を例にー」

◎第2回推進研究

平成25年7月25日(木) 国文学研究資料館 第4会議室

- 大友一雄「信濃国松代伊勢町八田家文書の史料群構造と目録記述」  
太田尚宏「武蔵国多摩郡和田村石坂家文書の概要と目録編成の視点」

◎第3回推進研究

平成25年11月7日(木) 国文学研究資料館 第4会議室

- 加藤聖文「史料館レコーズの公開規定の整備に向けて」  
太田尚宏「三多摩公立博物館協議会と国文研との地域連携構築に向けてー防災を切り口にー」

◎第4回推進研究

平成26年1月9日(木) 国文学研究資料館 第4会議室

西村慎太郎「長久保紅堂の“出現”－被災地域資料のレスキューから研究・活用へ－」

丸島和洋 「収蔵歴史アーカイブズデータベースのリニューアルについて」

◎第5回推進研究

平成26年2月27日(火) 国文学研究資料館 第4会議室

山田哲好「伊勢商人長井家文書の調査状況とシンポジウムの開催」

大友一雄「バチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書の調査・撮影方法の構築について」

[資料調査]

民間アーカイブズ調査の実践モデル構築ならびに館蔵の真田家文書の研究に関わり、真田宝物館・長野市立博物館所蔵史料の調査を実施した。また、江川文庫・上越市立高田図書館・京都府立総合資料館などで関連史料の調査を行った。

[展示・シンポジウム]

◎松代学講座 平成26年3月29日(土) 松代まち歩きセンター伝承館 参加者：40名

西村慎太郎「松代藩御用商人八田家と幕末」 ※松代地域との連携構築の一環として出講

[研究成果]

太田尚宏「真田家文書〈家老日記〉の種類と性格」(『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』第10号、1-33頁、2014年3月、査読あり)

アーカイブズ情報公開論の研究などを踏まえて、収蔵歴史アーカイブズ・データベースのトップページおよび資料群ごとのページ、画像サムネイル(約17万件)などを刷新し、館蔵資料の情報や画像にアクセスできるシステム環境として、これを公開した。また、編成論研究の成果を踏まえ、同データベースの信濃国松代真田家文書に448件の文書画像を試験的に公開した。研究会などでの検討を通じて、調査収集事業部から『史料目録』第98集(武蔵国多摩郡和田村石坂家文書)、『史料目録』第99集(信濃国埴科郡市松代伊勢町八田家文書その7)を刊行した。

「民間アーカイブズ調査研究班」が実施している信濃国松代地域に関する研究成果については、論文集として刊行するための準備を開始した。また、多摩地区との地域連携による「防災」シンポジウム開催に向けて調整を進めた。

## 2. 特定研究

### 【藤原道長の総合的研究－王朝文化の展開を見据えて－】

研究代表者：大津 透（東京大学教授）

研究参加者：中村康夫、池田尚隆（山梨大学教授）、磐下 徹（大阪市立大学講師）、大隅清陽（山梨大学教授）、倉本一宏（国際日本文化研究センター教授）、佐藤信一（白百合女子大学教授）、武井紀子（国立歴史民俗博物館機関研究員）、中島和歌子（北海道教育大学教授）、藤本勝義（青山学院女子短期大学名誉教授）、松野 彩（成蹊大学非常勤講師）、松岡智之（お茶の水女子大学准教授）、福長 進（神戸大学教授）、吉田幹生（成蹊大学准教授）

#### (1) 概 要

7回の研究会を開催し、研究発表及び道長事典の具体的形成方法について討議を行った。

道長事典は『御堂関白記全注釈』の成果を踏まえることになっているが、全注釈の項目は必ずしも事典の項目と合致せず、大きい調整が必要であることが分かっている。また、項目数も全体として縮約する方向であることが考えられているので、それぞれについて、具体的に検討を進めていたが、最終調整を終え、各項目の執筆者を決定した。

#### (2) 活動記録

[研究会]

##### ◎第1回研究会

平成25年4月21日(日) 金沢文庫

- 1 道長辞典の打ち合わせ（歴史班代表者磐下徹氏による報告）
- 2 道長辞典の打ち合わせ（文学班代表者松岡智之氏による報告）

##### ◎第2回研究会

平成25年5月18日(土) 国文学研究資料館第2会議室

- 1 発表者 倉本一宏「自筆御堂関白記について」
- 2 道長辞典等の打ち合わせ

##### ◎第3回研究会

平成25年7月21日(日) 金沢文庫

- 1 道長辞典の打ち合わせ（歴史班代表者磐下徹氏による報告）
- 2 道長辞典の打ち合わせ（文学班代表者松岡智之氏による報告）

##### ◎第4回研究会

平成25年8月29日(木) 東京大学

- 1 道長辞典の打ち合わせ（歴史班代表者磐下徹氏による報告）
- 2 道長辞典の打ち合わせ（文学班代表者松岡智之氏による報告）

##### ◎第5回研究会

平成25年9月21日(土) 国文学研究資料館第2会議室

- 1 発表者 吉田幹生「道長と和歌」
- 2 報告：磐下徹（歴史班）、松岡智之（文学班）

##### ◎第6回研究会

平成25年10月12日(土) 金沢文庫

- 1 道長辞典の打ち合わせ（歴史班代表者磐下徹氏による報告）
- 2 道長辞典の打ち合わせ（文学班代表者松岡智之氏による報告）

◎第7回研究会

平成25年12月21日（土） 国文学研究資料館第2会議室

- 1 発表者 池田尚隆「中関白家と道長」
- 2 道長辞典の項目および執筆者最終決定

[研究成果]

思文閣から刊行される『道長辞典』は刊行までに1, 2年を要すると思われるが、すでに、全員が執筆態勢に入っている。

【日本における宋版の伝来と受容についての研究】

研究代表者：牧野和夫（実践女子大学教授）

研究参加者：陳 捷、入口敦志、尾崎 康（元慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授）、椎名宏雄（龍泉院住職）、陳 先行（上海図書館歴史文献センター副主任）、長澤孝三（元帝京大学教授）、野沢佳美（立正大学教授）、芳村弘道（立命館大学教授）

(1) 概 要

研究会は、阿部泰郎名古屋大学教授を代表とする真福寺調査団との共同のかたちで行った。真福寺所蔵の宋版を調査し、その場で宋版に関する陳先行・尾崎康共同調査員の報告を受け、現物を前にした研究討議を行った。また、その前日には名古屋市蓬左文庫での宋版調査を行った。

ワークショップは本共同研究の総括として、国文学研究資料館にて開催した。共同調査員の他、本研究につき多くのアドバイスと調査の便宜を図っていただいた梶浦晋氏を招き、4本の研究発表と共同討議を行い、大変有意義なものとなった。

(2) 活動記録

[研究会]

◎研究会

期日：平成26年2月22日（土）、会場：真福寺 参加人数：20人

◎ワークショップ「日本における宋版受容の研究」

期日：平成26年2月24日（月）、会場：国文学研究資料館第2会議室 参加人数：20人

- 1 梶浦 晋「西厳寺所蔵佛典概観」
- 2 陳 先行「日本所蔵宋版三種観書記」
- 3 牧野和夫「南宋刊『大蔵一覽集』とその周辺－巻二を軸に－」
- 4 陳 捷「『古逸叢書・覆宋本莊子注疏』の刊刻をめぐって」
- 5 参加者による共同討議

[資料調査]

尾崎 康、陳 先行、陳 捷、入口敦志 2/21 名古屋市蓬左文庫（宋版関連調査）

尾崎 康、陳 先行、陳 捷、入口敦志 2/22 真福寺（宋版関連調査）

[研究成果]

牧野和夫「延慶本（もと）奥書・応永書写『平家物語』四周の書物ネットワーク：根来寺「四周」『実践国文学』85号、2014年3月、pp. 17-32、査読無

牧野和夫「日本現存資料から見た宋版大蔵經の〈修〉について：「入（埋）木」の世界」『実践国文学』84号、2013年10月、pp. 31-49、査読無



椎名宏雄『五山版中国禅籍叢刊』第10巻、臨川書店、2013年10月

芳村弘道『『乾隆四庫全書無板本』所收『江湖集』の鮑廷博校宋本識語について』『立命館文学』630号、2013年12月、pp. 832-847、査読無

陳捷『『夢梅華館日記』翻刻(第二十六～二十七巻)』『調査研究報告』34号、2014年3月、pp. 1-51、査読無

入口敦志「明清版本は日本においてどう和様化されたのか：日中韓の比較からみる十七世紀の諸相(中国古典文学と挿画文化) -- (版本挿絵の発展と伝播・拡散)」『アジア遊学』171号、2014年2月、pp. 202-211、査読無

入口敦志『武家権力と文学 柳營連歌、『帝鑑図説』』ぺりかん社、2013年7月

## 【語り物文芸の絵画化と享受環境に関する基礎的研究】

### ー〈曾我物語〉を題材とする絵入本・絵巻・屏風の考察を中心にして

研究代表者：宮腰直人（国文学研究資料館客員研究員）

研究分担者：市川廣太（武蔵大学大学院修士課程修了生）、伊藤慎吾（國學院大學非常勤講師）、植松有希（長崎歴史文化博物館研究員）、斉藤研一（武蔵大学非常勤講師）、鈴木 彰（立教大学教授）、出口久徳（立教新座中学校・高等学校）、目黒将史（立教大学兼任講師）

#### (1) 概 要

本年度は、昨年度同様、鹿児島・島津家と熊本・細川家に関わる曾我物語関連資料を中心に調査と研究を推進した。調査成果については、2回研究会を開催し、資料情報の共有と課題を検討した。また、最終的な成果報告として、公開研究会を立教大学にて開催した。公開研究会ではコメンテーターや参加者を交え、曾我物語絵に関する討議を行い、今後の研究方向を展望した。なお、代表者の宮腰と共同研究者の出口が成果の一部として、論文を公表した。

#### (2) 活動記録

〔研究会〕

##### ◎第1回研究会（通算4回め）

平成25年7月14日(日) 立教大学5号館5201教室

- 1 目黒将史「箱根町立郷土資料館蔵『曾我物語絵巻』について」
- 2 共同討議

##### ◎第2回研究会（通算5回め）

平成25年12月1日(日) 立教大学5号館5201教室

- 1 伊藤慎吾「兵庫県立歴史博物館所蔵『曾我物語絵巻』解題」
- 2 共同討議

##### ◎公開研究会

平成26年3月2日(日) 立教大学5号館5302教室

- 1 出口久徳「絵入り版本『曾我物語』の挿絵をめぐってー組み合わせ絵入り古活字版『曾我物語』を中心にー」
- 2 宮腰直人「『曾我物語絵巻』考ー曾我物語絵の展開と文化環境」
- 3 斉藤研一「下野狩りにみる『曾我物語』」
- 4 鈴木 彰「南九州における〈富士野の巻狩〉図の受容と再生ー二つの神事絵巻をめぐってー」

- 5 共同討議 コメンテーター 恋田知子（国文学研究資料館助教） 黒田 智（金沢大学准教授）

〔資料調査〕

- 植松有希 都立中央図書館 7/14-15（近世曾我物語関連資料）  
宮腰直人 熊本県立図書館 8/2-4（細川家の蔵書関連資料及び下野狩関連資料）  
宮腰直人、斉藤研一、鈴木 彰、出口久徳 8/11 鹿児島県立図書館（島津家関連資料）  
宮腰直人、斉藤研一、鈴木 彰、出口久徳 8/12-13 鹿児島大学附属図書館（島津家関連資料・玉里文庫）  
宮腰直人、植松有希 宮内庁書陵部 8/25-26（曾我物語絵巻の調査）  
宮腰直人、鈴木 彰 松浦史料博物館 9/12-14（曾我物語写本および蔵書目録の調査）  
宮腰直人、市川廣太、目黒将史 神奈川県歴史博物館 9/16、10/23（島津家旧蔵曾我物語絵巻の調査）  
伊藤慎吾 兵庫県立歴史博物館 10/11-12（曾我物語絵巻の調査）  
宮腰直人、市川廣太、目黒将史 2/7 - 9 鹿児島県立図書館（島津家の蔵書調査）

〔研究成果〕

- 宮腰直人『義経地獄破り』における語りの構造－「修行者」の物語と教化の言説を中心に－  
（「説話文学研究」48号、p. 96～106、平成25年7月、査読有）  
宮腰直人「勝田竹翁筆『富士巻狩』考－《曾我物語》研究序説」（「立教大学日本文学」108号、p. 97～106、平成26年1月、査読無）  
出口久徳「物語絵画と定型をめぐって－寛永三年『保元物語』の挿絵を中心に－」（「日本文学（日本文学協会）」p. 57～65、62巻7号、平成25年7月、査読有）

〔その他〕

- 出口久徳「寛文・延宝期の軍記物語をめぐって－延宝五年版『平家物語』を中心に－」（平成25年度説話文学大会・公開シンポジウム講師 於南山大学・平成25年6月29日）

【歴史叙述と文学】

研究代表者：福田景道（島根大学教授）

研究分担者：大橋直義（和歌山大学准教授）、清水由美子（清泉女子大学非常勤講師）、高橋由記（大妻女子大学非常勤講師）、本橋裕美（東京学芸大学非常勤講師）、森 暁子（お茶の水女子大学リサーチフェロー）、吉岡 亮（札幌大谷大学准教授）

（1）概 要

〈歴史叙述と文学〉という本共同研究の包括テーマに関連し、それを構成する以下の7つの個別の研究課題を実施し、5月に第1回の研究打合せ会を開催し、研究全体の調整役として研究代表者（島根大学・福田景道）を互選で選出した。また、今後の研究全体の進め方について検討を行った。その方針に基づき、8月と3月に研究発表会を開催した。

（個別研究課題）

- 平安後・末期の後宮とその文化圏に関する研究（高橋由記）  
歴史物語（文芸的歴史叙述）における歴史性と文学性の相関に関する研究（福田景道）  
民友社の歴史叙述の研究（吉岡 亮）  
近世軍書における戦国の歴史叙述の研究（森 暁子）  
歴史物語における皇女に関わる物語引用の研究（本橋裕美）

私撰国史の文献学的研究（大橋直義）

軍記文学における後白河院政期の歴史叙述についての研究（清水由美子）

## (2) 活動記録

[研究会]

### ◎第1回研究打合せ会

平成25年5月19日(日) 国文学研究資料館第1会議室

- 1 研究代表者を互選により選出（島根大学・福田景道）

### ◎第1回研究発表会

平成25年8月27日(火) 国文学研究資料館第2会議室

- 1 福田景道「文芸的歴史叙述の二面的享受と変容－『梅松論』諸本にみられる文芸性と歴史性－」
- 2 大橋直義「『扶桑略記』研究の可能性」
- 3 森 暁子「北条氏長の軍書における戦国の歴史叙述－『兵法問答』の場合－」
- 4 研究の打合せ（第2回研究発表会の計画、日程調整、成果報告書、その他）

### ◎第2回研究発表会

平成26年3月17日(月) 国文学研究資料館第2会議室

- 1 本橋裕美 「『大鏡』『栄花物語』における皇女に関わる物語引用の検討－『栄花物語』三条天皇皇女に関する文脈を中心に－」
- 2 高橋由記 「後朱雀朝の女性の文化圏について－歴史物語と和歌と－」
- 3 清水由美子「平家物語の歴史認識－末法の描かれ方をめぐって」
- 4 吉岡 亮 「明治二〇年代の歴史と文学－民友社の歴史叙述の研究(1)」
- 5 研究の打合せ（次年度の計画、成果報告書、その他）

[資料調査]

高橋由記 7/5 武田薬品工業株式会社京都薬用植物園（関連資料調査）  
 吉岡 亮 8/26 国会図書館（関連資料調査）  
 清水由美子 10/21 岡山周辺（『平家物語』関連の实地踏査）  
 大橋直義 11/14 国文学研究資料館（マイクロフィルム等閲覧調査）  
 大橋直義 11/22 国文学研究資料館（マイクロフィルム等閲覧調査）  
 森 暁子 12/3 国文学研究資料館（山鹿積徳堂文庫の委託資料調査）  
 清水由美子 3/7-9 鶴越(神戸市兵庫区)周辺、須磨周辺、城南宮(京都市伏見区)周辺、法住寺(京都市東山区)周辺（『平家物語』関連史跡の实地踏査）

[研究成果]

森 暁子、「北条氏長『兵法問答』における武田方の合戦記事について」7/26 国文学研究資料館（「仮名草子研究会」にて口頭研究報告）  
 大橋直義、「仏法公伝説の再検討」（『南都巡礼記』元興寺条にむけて）11/23 慶應義塾大学（「巡礼記研究会」にて口頭発表等）  
 清水由美子、「資料としての軍記文学、物語としての軍記文学」、『國學院雑誌』第114巻11号、316頁～332頁、平成25年11月15日、査読有り

## 【日本古典籍の書型に関する研究】

研究代表者：陳 捷

研究参加者：入口敦志、海野圭介、柏崎順子（一橋大学教授）、佐々木孝浩（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授）、中村健太郎（帝京大学短期大学助教）

### (1) 概 要

日本古典籍のかたち、とくに「書型」を対象として、中国・韓国の古典籍との比較しながら、共同研究を行ってきた。合計5回の研究会を開き、9月に九州の共同調査を実施した。日本古典籍の「書型」の特徴と、その内容（著述内容やジャンル）との密接な関係を考察すると同時に、中国・韓国の古典籍との関係についても新しい知見を得ることができた。なお、第5回の研究会は本館の大高洋司教授が代表を務める科学研究費補助金基盤研究(B)「韓国国立中央図書館所蔵日本古典籍の日韓共同研究」との合同シンポジウムであり、成果の一部は『アジア遊学』特集として刊行する予定である。

### (2) 活動記録

〔研究会〕

#### ◎第1回研究会

平成25年5月31日(金) 国文学研究資料館 第3会議室

- 1 和書のさまざま展 展覧
- 2 入口敦志「枅形本の諸問題」
- 3 活動についての打ち合わせ

#### ◎第2回研究会と現地調査

平成25年9月3日(火) 祐徳稲荷神社博物館

平成25年9月4日(水) 九州大学附属図書館

平成25年9月5日(木) 九州国立博物館

上記三箇所において、所蔵の貴重書を閲覧するとともに、現物を囲んで研究と討論を行った。

#### ◎第3回研究会

平成25年11月2日(土) 慶應義塾大学三田キャンパス斯道文庫

- 1 佐々木孝浩「綴葉装の四半本と六半本をめぐって」
- 2 柏崎順子「江戸版の考察を通して見た江戸初期出版界」

#### ◎第4回研究会

平成26年1月17日(金) 国文学研究資料館 第2会議室

李 載貞「朝鮮時代の活字本と活字の紹介」

韓国国立中央博物館の李載貞先生を招聘し、韓国における活字本と活字についての報告をしていただいた。

#### ◎第5回研究会 日韓古典籍交流会「古典籍が結ぶ日本と韓国」

平成26年1月24日(金)～26日(日) 国文学研究資料館 オリエンテーション室、印刷博物館  
プログラム

1月24日(金) 司会 陳 捷（国文学研究資料館研究部教授）

- 1 奉 成奇（ボン・ソンギ 韓国国立中央図書館図書館研究所古典運営室長）「韓国の古活字に対する小考」

\*通訳：李 仙喜（イ・ソニ 東京大学大学院生）・コメンテータ：藤本幸夫

- 2 柳 富鉉（リュ・ブヒョン 大真大学校教授）「高麗大藏經の新しい理解」

\*通訳：中野耕太（東京大学大学院生）・コメンテータ：藤本幸夫

1月25日(土) 司会 陳 捷（国文学研究資料館研究部教授）

講演 藤本幸夫（富山大学名誉教授）「日本現存朝鮮本とその研究」

\*通訳：宋 好彬（ソン・ホビン 明治大学招聘研究員）コメンテータ：奉 成奇

1 佐々木孝浩（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授）「日本古典籍における中世末期の表紙の変化について－朝鮮本と和本を繋ぐもう一つの視座－」

2 海野圭介（国文学研究資料館研究部准教授）「手鑑の中の高麗写経」

\*通訳：康 盛国（カン・ソンクック 大阪大学大学院生）

3 入口敦志（国文学研究資料館研究部助教）「古活字版の黎明」

4 金 永昊（キム・ヨンホ 東北学院大学講師）「『三綱行実図』の伝来と影響」

\*通訳：金 永昊

26日は印刷博物館において関連資料調査を行った。

科学研究費補助金基盤研究(B)「韓国国立中央図書館所蔵日本古典籍の日韓共同研究」

（代表者 大高洋司）と合同でシンポジウムを開催し、当研究の代表者陳捷が司会を務め、当研究のメンバーから、佐々木孝浩、海野圭介、入口敦志が成果を発表した。

#### [資料調査]

平成25年9月3日(火)～5日(木) 祐徳稲荷神社博物館・九州大学附属図書館・九州国立博物館関連調査

#### [研究成果]

陳捷『夢梅華館日記』翻刻（第二十六～二十七巻），『調査研究報告』（国文学研究資料館）第34号，pp.158(1)-108(51)，2014.3、査読無し

中村健太郎「古筆切資料としての伝世尊寺行俊筆「長門切」－伝称筆者と名物切の名称について－、『國學院雑誌』、第114巻11号、306-315頁、平成25年11月、査読無し

海野圭介・中村健太郎 洛中洛外図屏風（歴博甲本）に貼られた付箋の書、『国立歴史民俗博物館研究報告』、第180集、65-77頁、平成26年2月、査読有り

柏崎順子「初期出版界と古浄瑠璃」（『言語文化』第50巻、p.65-81、2013年12月25日、査読無し）

柏崎順子「伊勢と俳諧」（『人文・自然研究』第8号、p.378-396、2014年3月31日、査読無し）

柏崎順子「江戸版からみる一七世紀日本」（鈴木俊幸・岩坪充雄・柏崎順子等共著（『本の文化史』第2巻、平凡社ページ未定、31ページ分、平成26年刊行予定、査読無し）

日韓古典籍交流会「古典籍が結ぶ日本と韓国」の成果は『アジア遊学』特集として刊行する予定である。

### 3. 国際連携研究

#### 【日本文学のフォーラム】

研究代表者：伊藤鉄也

研究参加者：大高洋司、小林健二、神作研一、谷川恵一、山下則子、谷川ゆき

#### (1) 概要

本研究は、日本文学の国際的な共同研究を促進するために、国文学研究資料館が先導的に推進するものである。

国文学研究資料館では、これまでに「国際日本文学研究集会」を毎年実施し、海外の研究者との国際交流を図って来た。そこで、従来の研究を踏まえてさらに発展させるべく、学術交流協定を締結している海外諸機関や大学との間で新たな共同研究を開始する準備に着手する。日本文学の時代や分野という領域に限らず、学際的・国際的な視野からの研究の創出を目指すものである。

#### (2) 活動記録

〈国際連携研究「日本文学のフォーラム」〉の第1回国際シンポジウムについては、平成24年度に3つのテーマが確定していた。第1回の実施時期は平成26年1月となり、コロンビア大学ハルオ・シラネ教授と具体的な検討を続けて来た。

平成25年度の〈国際連携研究「日本文学のフォーラム」〉の第1回国際シンポジウムは、「もう一つの室町一女・語り・占い」（担当：小林健二）というテーマで、平成25年1月11日（土）に開催した。これは、日本国内外の研究者が共有しやすいテーマであり、言語に縛られない幅広い議論の展開が期待できるものであった。海外から3人の参加を得、日本側の研究者2人を交えての研究発表とシンポジウムを実施した。参加者は61名であった。

#### 〔第1回国際シンポジウム〕

平成26年1月11日（土） 国文学研究資料館 大会議室

開会の挨拶：今西祐一郎・国文学研究資料館館長

趣旨説明と講師紹介：小林健二・国文学研究資料館教授

発表 恋田知子（国文学研究資料館助教）／「物語草子と尼僧」

マティアス・ハイエク（パリ第七大学教授）／「「うらやさん」－占いからみる専門知識の庶民化」

ハルオ・シラネ（コロンビア大学教授）／「女性・語り・救済－東西の視点から」

コメンテーターのコメント：崔京国（明知大学教授）／田中貴子（甲南大学教授）

シンポジウム（全体討議は参加者全員）

閉会の挨拶：伊藤鉄也・国文学研究資料館教授

#### 〔資料調査〕

期 間：平成26年3月24日（月）～31日（月）

調 査 者：谷川ゆき（研究部・機関研究員）

用務内容：Council on East Asian Libraries (CEAL。東亜図書館協会) および、Association for Asian Studies (AAS。アジア学会) に参加し、海外研究者との打合せ及び交流を行った。

#### 〔研究成果〕

3年間で3回の研究発表とシンポジウムを実施しての成果は、最終年度である平成27年度に、一冊の報告書として編集し刊行する予定である。これによって、海外を含めて多くの研究者の

方々と、日本文学研究に関する情報の共有を図ることとなる。本年度は、第1回の研究発表とシンポジウムに関して、原稿を依頼したところである。

[その他]

第2回国際シンポジウムは、「男たちの性愛」(担当：神作研一)というテーマで開催する。開催時期は、平成26年12月を予定している。

## 1. 調査収集事業部

## 【概 要】

調査収集事業部では、全国の研究者・研究機関等との緊密な協力のもとに、資料の特性を踏まえた調査と、それに基づく計画的な収集を実施した。具体的には、全国の所蔵機関に存在する日本文学原典及びその関連資料の調査と、撮影（マイクロフィルムまたはデジタル撮影）による収集、及びアーカイブズ調査収集である。調査については、ほぼ年度当初に予定していたとおりの成果を挙げることができた。収集については、前年度と同程度の成果となった。

また、「リプリント日本近代文学」第7期40点の刊行に向けた作業を行った。

## 【全国の所蔵機関に存在する日本文学原典及びそれに関連する資料の調査・収集】

## (1) 日本文学原典及びその関連資料の調査・収集

平成25年度においては、約7,700点の調査、1,500点の収集を行った。中心となる地域別調査（92箇所）のほか、先方機関と連携して行う連携調査（3箇所）を行った。

## (2) 日本古典籍資料調査データベース

平成24年度に調査したカードを中心に、画像データ約6,100件、書誌データ約5,800件の入力を行った。現在約172,000件が利用に供されている。毎年度蓄積する新規カードのデジタル化は、今後も継続する予定である。

## (3) 調査収集の成果としての刊行物

『調査研究報告』第34号を刊行した。

また、オンデマンド出版による、開化期戯作など明治文学の復刻である「リプリント日本近代文学」第7期40点の刊行に向けた作業を行った。

## (4) 調査収集の成果の共有と還元のための取り組み

調査収集の成果は、これまでもマイクロフィルム公開等の形で国文学研究に寄与してきたが、それを更に推進するための取り組みとして、平成18年度、調査員を共同研究者とする基幹研究を開始した。「近世における蔵書形成と文芸享受」（研究期間：平成23年度～25年度）においては、共同研究会（平成25年6月7日、於・国文研、平成25年9月13日、於・手銭記念館、平成25年11月4日、於・富加町郷土資料館、平成25年12月21日～22日、於・国文研）を開催し、調査研究等の報告を行った。また、平成25年度から開始した「日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉」（研究期間：平成25年度～27年度）においても、共同研究会（平成25年6月7日、於・国文研、平成25年12月25日、於・国文研）を開催し、研究発表と調査活動の打ち合わせ等を行った。

## 【アーカイブズ調査・収集】

## (1) 目録による史料群所在情報の調査



全国の史料保存利用機関の史料群情報、目録情報・刊行状況の調査及び収集を行い、目録類を収集した。

## (2) 史料の存在形態調査

史料存在形態情報の記述・整理、簡易的保存措置、目録作成・データベース作成、保存と利用のための基盤整備として、武蔵国多摩郡和田村石坂家文書目録・信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その7）を収録する『史料目録』第98・99集の2冊を刊行した。

## (3) 所蔵史料に関連する史料の調査及び収集資料

菰山市江川文庫の調査とデジタル収集（527点）、及び長野市立博物館（野本家文書）のデジタル収集（60点）を実施した。また、埼玉県立文書館所蔵のマイクロフィルムの複製（162リール）を行った。

## 2. 電子情報事業部

### 【概要】

電子情報事業部は、情報システムの有効・適切な運用を図り、研究・調査及び事業の成果を、研究者、学生、社会一般に、インターネットを通じて提供した。

現在運用中の第8期情報システムは、平成23年2月1日にリプレースして以来、大きなトラブルは無く順調に稼働した。

管理運用面では、ほぼ安定した稼働を保持し、情報システム、情報資源共に概ね順調に経過した。

データベース公開事業では、平成26年3月末現在31タイトルのデータベース（概要は表3を参照）を公開した。搭載データについては、適宜追加、更新などの作業を行い、学術基盤としてのサービスの維持に努めた。

一方、データベースと関連システムの保存、保守、更新など日々の運用管理業務は、学術情報課学術情報係と同システム管理係が担当した。また、データベース利用に関わる評価のための利用統計等のデータ収集と分析を行い、データベース利用環境の向上に努めた。

デジタル画像の公開に関しては、館蔵和古書画像の画像として659作品を公開するとともに、収集マイクロ資料画像として肥前島原松平文庫、大洲市立図書館、大和文華館など9所蔵者4,641作品を公開した。

### 【電子情報事業部の運営】

#### (1) 組織体制と運営

電子情報事業部長を置き、同副部長他、8名の教員の体制により事業を運営し、学術情報係、システム管理係が事務を担当した。

概ね隔月毎に電子情報事業部会を開き、事業全体の進捗度の把握と評価を行った。

また、電子情報事業に関わる種々の事項について審議、立案等を行った。

#### (2) 情報システムの運用管理

情報システムは、Linuxサーバ及びWindowsサーバによる分散型サーバシステムと、これらを利用するためのクライアントPC、そしてこれらを接続する館内LAN（1 Gbps）で構成され、主に館

内の様々な情報処理、並びにインターネット経由による公開データベースサービス等に使用、計画停電での停止を除き順調に稼働した。

情報システムに関する運用管理については、システム稼働状況（サーバ稼働率、ディスク使用率、ネットワーク・トラフィック）のデータを常時監視した。

また、情報システムに蓄積された日本文学とそれに関わるアーカイブズ研究資料情報等の資源監視、プロセス監視、ユーザ管理、バックアップの定期的な運用管理を行った。これにより、年間を通し概ね順調な運用を確保する事ができた。

また、平成25年7月に、業務用計算機システム端末（103台）及び業務用データ共有のためのファイルサーバの更新を行った。なお、更新前まで運用していた端末及びプリンタは、リース契約期間の終了とともに返却し、業務上不足する機器については、別途購入した。

また、館蔵資料のデジタル公開による画像データの急激な増加に伴い、平成25年10月にiSCSIストレージシステムの増設を行った。

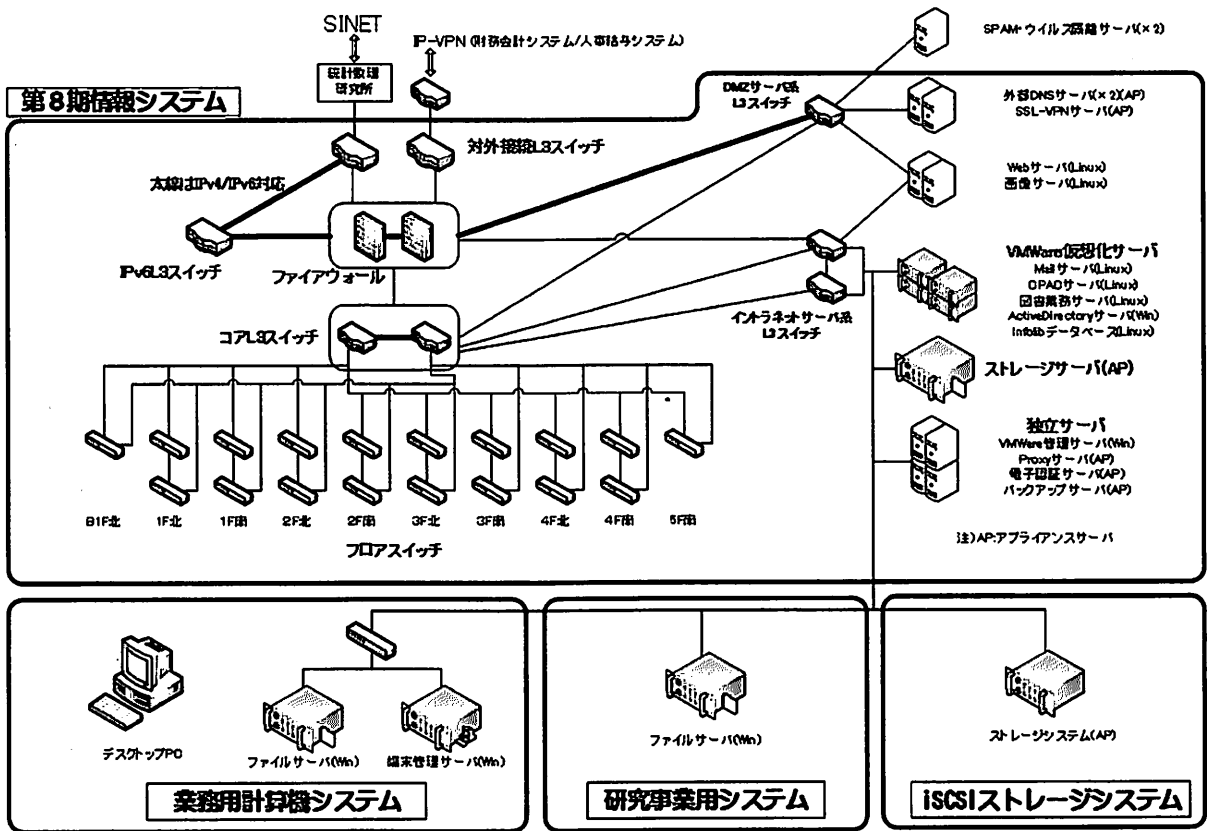


図 1 第 8 期情報システム構成図（平成26年 2 月現在）

(3) ネットワークシステムの運用管理

研究、教育、業務におけるネットワークシステムについて、障害に強く、かつ安定的な稼働に努めた。

また、電子メール等へのウイルス侵入に対する予防対策、緊急対応、システムの更新、パッチ適用等については、迅速な対応に努め、概ね順調な運用を行う事ができた。

第 8 期情報システムでは、第 7 期情報システムで整備した高いセキュリティ対策水準を維持しつつ、VT 技術によるサーバの仮想化やコンソールのリモート管理等、運用管理機能の一元化を行

い、作業の効率化を図った。

#### (4) 情報資源の運用管理

公開している31タイトルのデータベースについては、年間を通じて安定的な稼働を行った。データベースによっては、適宜データの追加更新を行った。

また、これら情報資源の定期的なバックアップを行い、不測の事態に対しても十分な対応を行い、維持に努めた。

#### (5) 情報サービスの向上

各データベースの利用者サービスの向上に資するため、アクセス元情報等の利用統計分析及びウェブページのデザイン等の変更を適宜行った。

また、館外からのアクセス環境を改善するため、IPv6に対応したWebサーバ及びDNSサーバの設定変更作業を行った。

### 【個別事業の実績】

#### (1) 情報システムの運用管理

情報システムの安定的運用管理及び情報資源のセキュリティ確保のため、以下の業務を行った。

##### ① 情報システムの運営

システムのオペレーション、バージョンアップ、パッチ適用作業等については、監視と操作作業は委託SEにより行い、システム管理係において確認を行った。平成25年度において、情報システムのハードウェア、ソフトウェア、オペレーションに起因するシステム障害は3件、ネットワーク障害は1件発生した。詳細を表1に掲げる。

表1 平成25年度システム障害及びネットワーク障害一覧

区分	障害内容	対応内容
システム障害	gazoサーバで利用しているストレージに障害が発生した	ディスク障害だったため交換により収束。
	公開DBにおいて画像閲覧不可が発生した	画像配信システムの透かし画像システムを入れ替えたことにより収束。
	画像配信システムに障害が発生した	画像配信システムの透かし画像システムを修正することにより収束。
ネットワーク障害	全館のネットワークが遅延後停止した	発生当日夜にループ発生箇所を特定し切り離すことにより収束。その後各階スイッチにループ検知機能を設定。

外部からの干渉（クラッキング等）による重大なシステム障害は発生していない。（システムの計画停止作業は、法令点検に伴う全館停電のために1回と、総合研究棟工事に伴う構内全域停電のために1回、計2回行った。）PC系、プリンタ系の障害等については、システム管理係及び業者の保守窓口が対応した。

##### ② 共同利用の推進

人間文化研究機構「研究資源共有化事業」に積極的に関わり、その責務を果たした。人間文化研究機構に属する6機関（当館、国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館）の合計100以上のデータベースを検索対象とする統合検索システムnihuINTに参加し、当館のデータベースも検索できる。

##### ③ 情報セキュリティの推進

平成21年4月1日に制定した情報セキュリティポリシーを継続して運用している。平成25

年度は、昨年度から運用をしているESET管理サーバとWebプロキシサーバとの連動による外部接続システムの継続運用に加え、Windows OS及びMac OSのサポート終了に伴う該当端末の洗い出しを行い、随時接続解除作業を行った。

## (2) データベースの運用管理

データベースと関連システムの保存と運用管理を行った。また、研究系や他事業部が作成するデータベースと関連システムは、緊密に連携・協力を行った。

平成25年度システムの開発、変更及び大幅なコンテンツ追加を行ったデータベースを表2に掲げる（全公開データベースの概要は表3、利用状況は表4をそれぞれ参照）。

表2 平成25年度システムの開発、変更及び大幅なコンテンツ追加を行ったデータベース

データベース名	内容
国文学論文目録データベース	トップページリニューアル 検索ページをSGML版からCSV版へ変更
国文学論文目録データベース (館内業務用)	印刷機能等の追加
日本古典籍総合目録データベース (公開用/館内用)	異体字検索対応
統合古典籍総合目録データベース (館内業務用)	書誌表バッチ登録機能の開発
所蔵和古書・マイクロ/デジタル 目録データベース	書名一覧表示システムの構築 異体字検索対応 追加画像公開 [所蔵和古書] 659作品 [マイクロ/デジタル目録データベース] ・肥前島原松平文庫 250作品 ・祐徳稲荷神社 68作品 ・もりおか歴史文化館 6作品 ・土佐山内家宝物資料館 2,249作品 ・大洲市立図書館 339作品 ・大和文華館 1,103作品 ・金城学院大学図書館 161作品 ・総本山善通寺 213作品 ・大阪府立中之島図書館 252作品
日本古典資料調査データベース	詳細表示画面の表示機能の改修
近代書誌・近代画像データベース	表示画面の拡充と機能向上
収蔵歴史アーカイブズデータベース	トップページリニューアル
北米日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	「在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ」に名称変更



表3 HP「電子資料館」から公開しているデータベース

図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	
当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録データベース。図書約150,000件、雑誌約8,500タイトル。	
国文学論文目録データベース	
国文学関係論文 (大正元年～平成23年) の目録データベース。約530,000件。	
日本古典籍総合目録データベース	
日本の古典籍の書誌・所在についての情報を、著作・著者についての情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録データベース。『国書総目録』所載の所在・翻刻複製情報 (写本、版本、活字・複製・謄写本) を併せて表示。書誌情報には、当館所蔵和古書とマイクロ/デジタル資料 (国内外の古典籍を撮影収集した資料) も含む。著作約468,600件、著者約69,000件、書誌約504,000件。	
所蔵和古書・マイクロ/デジタル目録データベース	
当館所蔵のマイクロ/デジタル資料 (国内外の大学・図書館等所蔵の古典籍を当館がマイクロ、デジタル撮影し、収集した資料) と和古書の目録データベース。検索結果から、古典資料調査データ及び原本、館蔵貴重書等へのデジタル画像へのリンクあり (一部)。マイクロ/デジタル資料約222,500件、和古書約16,600件。	
日本古典資料調査データベース	
当館が30年にわたり調査してきた国内外の大学・図書館・文庫等所蔵の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出したデータベース (調査カード画像も参照可能)。約172,800件。	
近代書誌・近代画像データベース	
平成10年度より開始した、明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。書誌約36,940件、画像約4,100件。	
明治期出版広告データベース	
近代日本の出版事情を探ることを目的として、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成したものです。約61,600件の広告を収めており、書名・書肆検索や広告本文の全文検索機能も備えている。	
大系本文 (日本古典文学・喃本) データベース	
岩波書店刊行の旧版「日本古典文学大系」と東京堂出版刊行の「喃本大系」の作品について、全文検索とテキスト閲覧ができます。大系本文 (日本古典文学) データベースは利用登録制。	
古典選集本文データベース	
二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語。古典作品原本の全文検索が可能。当館蔵書底本とし、泣き別れ検索にも対応。歴史物語は、栄花物語、大鏡、今鏡、水鏡、増鏡により構成。	
歴史人物画像 (古典キャラクター) データベース	
国書古典籍中の絵入り叢伝から古典キャラクターの人物画像を集めてデータベース化したもの。おもに明治以前のものから挿絵の古典キャラクター画像 (約3100名・4700件) のみを切り出し、各人物がどのように描かれてきたかを比較対照できる。	
連歌・演能・雅楽データベース	
寄託データベースである連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添えてセットにしたデータベース。	
コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース	
欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報データベース (ケンブリッジ大学のピーター・コーニツキー教授が収集・整理されたデータを順次追加・更新)。14,318件。一部原本画像の公開あり。	
新奈良絵本画像データベース	
当館所蔵の奈良絵本 (19本) の原本画像データベース (翻刻付)。	
史料情報共有化データベース	
国内外で公開されている資料群 (アーカイブズ) 情報のデータベース (歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築)。	
古事類苑データベース	
『古事類苑』大正版洋装本のデータベース。テキスト版では、『天部』など4部 (7部に拡大予定) のテキストが閲覧可能。全文・抜粋検索版では、『天部』など4部の全文テキスト、『神祇部』など23部の抜粋テキストに対して、キーワード検索が可能。	
古典学統合データベース (芳賀人名・地下家伝)	
日本古典籍研究に関わる人物情報をデータベース化。現在、芳賀矢一 (1867-1927) 編『日本人名辞典』 (1914) と [三上景文著; 正宗敦夫 (1881-1958) 編纂校訂『地下家伝』 (日本古典全集刊行会, 1937.9-1938.8) 6冊をデータベース化したものを搭載。歴史人物画像データベースにもリンク。	
収蔵歴史アーカイブズデータベース	
史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料 (アーカイブズ) の概要データベース及び資料目録データベース。	

和刻本漢籍総合データベース	当館収集のマイクロ資料中の和刻本の序跋刊記情報と所蔵和刻本の画像等を提供するデータベース。現在、序跋刊記情報のみ。
古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報データベース。約23,000件。
アーカイブズ学文献データベース	アーカイブズ学に関する国内研究文献のデータベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。16,270件。
日本実業史博物館コレクションデータベース	日本実業史博物館準備室旧蔵資料の内の絵画・器物・広告の資料情報6,936件と13,643件の画像を公開している。
館蔵神社明細帳データベース	当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格に関するデータベース。内務省管轄の公簿として作成された原本は当館において閲覧提供している。43,187件。
伊豆荊山江川家文書データベース	財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。
伝記解題データベース	当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収載されているかをデータベース化。
日本文学国際共同研究データベース	科研費基盤研究(S)「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究論文目録や論文画像のデータベース、翻訳作品データベース等。
史料所在情報データベース	国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報データベース（詳細版は利用登録制）。
蔵書印データベース	当館所蔵の古典籍を中心に原本から採取した蔵書印情報を、印影とともに一覧するデータベースシステム。他館の画像DBを参照した蔵書印情報や『近代蔵書印譜（初編～五編）』をはじめ数点の蔵書印譜からも印影等を収載。採録対象は、いわゆる蔵書印に加え、仕入れ印や貸本屋印を含む書肆印、蔵書票・書肆票の類、また、写本等で作成に関わった人物の印記や書画等の落款に及ぶ。
増田太次郎広告コレクションデータベース	増田太次郎氏（1905-1990、戦後雑誌「宣伝」を主宰、宣伝広告のコンサルタントとして活躍、1965年から広告史研究に没頭、1975年から(株)オリコミサービス顧問）が収集した広告類約2万点を2009年に(株)オリコミサービスから寄託を受けました。その主要部分を占める約8,700点の第一次公開分書誌・画像データベースです。二次利用については所蔵者である(株)オリコミサービスの許可が必要です。
近世語彙カードデータベース	「近世語彙カードデータベース」は、故松崎仁氏（立教大学名誉教授）が生前作成された、歌舞伎・浄瑠璃用語をはじめとする、約15万枚の近世語彙カードのデータベースである。手書きのノート・メモをそのまま収録しており、判読等の手間を要するものであるが、膨大な数のカードを保存・公開することによって、近世語彙研究・近世演劇研究進展の一助とすることを計るものである。
所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	広島大学附属図書館に所蔵される200点を超える「読本（よみほん）」コレクションのうち、平成23年度は、43点分を最新のデジタル画像として公開する。本コレクションは、高い資料的価値を認められながら、様々な事情で実見の難しい時期が続いていたが、本DBにより、古典籍資料の共有化への貢献が可能になった。
在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	日本の古典籍を所蔵する北米の各機関について、住所、連絡先、所蔵規模、コレクション概略、閲覧の可否、複写の可否、目録の有無などの情報を英語で提供。一部機関については日本語でも情報提供。東アジア図書館協議会（CEAL）日本資料委員会の元に組織された日本古典籍小委員会が情報を取り纏め、国文学研究資料館がデータベースとして公開。

（平成26年3月現在）

表4 平成25年度 主なデータベースの利用状況

データベース名	種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	検索件数(h)	48,912	59,576	59,143	65,846	63,916	64,370	70,134	75,070	66,715	70,046	57,786	61,605	763,119
国文学論文目録データベース (旧版) (2014.2.13公開停止)	検索件数(i)	65,746	83,325	77,955	79,831	55,972	55,679	80,165	84,376	80,175	69,200	18,567	-	750,991
国文学論文目録データベース (リニューアル版) (2014.2.13公開開始)	検索件数(i)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20,251	30,850	51,101
日本古典籍総合目録データベース	検索件数(i)	46,691	55,094	49,299	50,237	43,600	48,481	51,937	51,495	51,401	43,998	42,603	59,011	593,847
所蔵和古書・マイクロ/デジタル目録データベース	検索件数(i)	7,549	9,281	9,974	10,054	10,423	8,349	8,879	10,043	9,131	7,970	7,287	6,505	105,445
日本古典資料調査データベース	検索件数(i)	772	1,071	1,386	1,371	1,269	1,382	1,256	1,488	1,111	1,255	1,313	794	14,468
近代書誌・近代画像データベース	検索件数(i)	6,094	6,422	5,228	4,042	3,733	4,361	4,385	3,411	3,859	4,239	3,468	3,251	52,493
大系本文 (日本古典文学) データベース	検索件数(i)	891	1,230	1,392	1,560	1,261	1,322	1,376	1,946	1,401	1,310	1,481	1,036	16,206
大系本文 (断本) データベース	検索件数(i)	359	518	515	424	397	405	578	1,030	1,091	719	428	440	6,904
古典選集本文データベース (二十一代集)	検索件数(i)	1,799	2,400	2,511	2,981	1,795	1,929	2,994	3,545	3,478	2,951	1,488	2,054	29,925
古典選集本文データベース (吾妻鏡)	検索件数(i)	908	1,328	995	896	1,026	1,365	1,370	1,331	1,159	1,285	679	644	12,986
古典選集本文データベース (歴史物語)	検索件数(i)	336	794	662	493	356	620	473	535	449	426	380	471	5,995
歴史人物画像 (古典キャラクター) データベース (HTMLページ)	ページ閲覧数(a)	20,845	21,196	21,437	22,515	20,595	26,070	20,110	15,734	13,772	15,284	15,496	11,398	224,452
歴史人物画像 (古典キャラクター) データベース (全文検索版)	検索件数(i)	3,382	2,990	3,267	3,798	4,269	2,605	2,867	2,873	6,345	2,480	2,062	2,306	39,244
新奈良絵本画像データベース	ページ閲覧数(a)	2,415	2,688	2,053	2,745	2,714	2,181	2,155	2,015	1,787	3,350	2,301	1,561	27,965
収蔵歴史アーカイブズデータベース	検索件数(i)	556	890	909	1,130	948	777	925	974	659	1,425	2,004	1,944	13,141
古事類苑データベース (テキスト版)	ページ閲覧数(a)	27,277	34,287	32,094	34,111	31,998	30,188	39,981	41,313	35,743	41,152	33,620	29,906	411,670
古事類苑データベース (全文検索版)	検索件数(i)	544	421	392	626	303	556	614	864	765	640	680	563	6,968
史料情報共有化データベース	利用回数(i)	4,933	8,023	6,619	6,749	6,592	4,937	5,322	8,718	8,045	12,415	8,487	4,764	85,604
蔵書印データベース	検索件数(i)	2,188	2,439	2,576	2,448	2,697	2,191	2,231	2,881	2,815	3,244	2,191	2,825	30,726

動作環境 (i): InfoLib  
(a): apache  
(h): HelloLibrary



### 3. 情報資料サービス事業部

#### 【概 要】

資料閲覧・複写などの利用者サービス、資料の受入・整理・保存、古典籍総合目録事業、電子化推進事業ともに順調に経過している。

資料管理面では、蔵書点検（4年計画2年次）に取り組んでいる。

サービス面では、利用者検索用端末、複写機の更新を行った。

平成23度から取り組んでいる古典籍資料のデジタル化は、新たに「※日本語の歴史的典籍のデータベース構築計画」（平成25年度～平成34年度）が予算措置されたことにより、所蔵原本及び所蔵マイクロフィルムのデジタル化の体制が整備され、平成25年度は、所蔵原本約1,500点のデジタル撮影、マイクロフィルムのデジタル化約4,500点を行った。

資料のデジタル画像公開の進展にともない、文献複写受付・資料の掲載許可の件数も増加している。

鶴飼文庫、田安德川家資料などのコレクション類の大型寄贈が相次いでおり、資料の整理・目録作成を重点的に進めている。

※平成26年度から「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」へ移行予定

#### 【図書資料の収集および受入・整理】

##### (1) 概 要

図書資料委員会で所蔵資料全体を考慮して計画をたて、国文学・歴史分野図書、古典籍原本等を収集している。収集した資料については、装備・目録作成を行っている。

##### (2) 活動記録

##### ①資料の受入

平成25年度の受入資料数は以下のとおりである。

資料1 図書資料受入統計

			点数等		冊数等	
			平成25年度	累積	平成25年度	累積
収集 マイク ロ資 料	マイクロフィルム	日本文学	834点	188,667点	287リール	42,129リール
		歴史	0件	193件	0リール	5,859リール
	マイクロフィッシュ	日本文学	0点	16,667点	0枚	57,358枚
	紙焼写真本	日本文学	-	-	0冊	75,122冊
		歴史	-	-	0冊	11,196冊
	図 書	写本・版本		1,128点	14,731点	2,571冊
活字本・影印本等		-	-	5,229冊	175,923冊	
逐次刊行物		2,007誌	8,816誌	-	-	
所蔵史料			19件	478件	-	約500,000点
寄託資料・寄託史料		日本文学	1件	9件	1冊	10,138冊
		歴史	0件	17件	0件	7,032点



## ②貴重書・特別コレクションの指定

貴重書17点を指定した。

## 資料2 新指定貴重書

請求記号	書名等
99 : 174	住吉社歌合切 (写、1軸)
99 : 175	尼崎切 伝源俊頼筆 (尼崎本万葉集断簡) (写、1軸)
99 : 176	中尊寺経妙法蓮華経巻第五 (写、1軸)
99 : 177	大般若波羅蜜多経 卷四百五 (写、1帖)
99 : 178	教化之文章 (写、1冊)
99 : 179	源氏小鏡 (刊、3冊)
99 : 180	大般若波羅蜜多経 卷三百八十一 (写、1帖)
99 : 181	奈良絵本うつほ物語 (写、3帖)
99 : 182	伝源俊頼筆 拾遺抄切 (写、1軸)
99 : 183	春日懷紙 (写、5枚)
99 : 184	源氏物語 (写、45冊)
99 : 185	奈良絵本うらしま (写、1軸)
99 : 186	理趣釈経：仁海僧正自筆 (写、1冊)
99 : 187	狂言絵 (写、60枚)
99 : 188	酒茶論 (刊、1冊)
99 : 189	嵯峨本三十六歌仙 (刊、1冊)
99 : 190	平家物語 (残巻) (写、3冊)

## ③資料の装備・目録作成

画像のウェブ公開には、対象資料の目録作成が不可欠であるため、画像公開が決定した資料から優先したことがある。

## a. マイクロ資料目録作成

- ・書誌データ作成 3,072件
- ・書誌データ登録 3,020件

## 資料3 マイクロ資料目録データベース登録一覧

文庫番号	所蔵者	サービス区分	リール番号	件数
6	筑波大学附属図書館	B'	478-504	70
20	宮内庁書陵部	A'	822-850	176
26	酒田市立光丘文庫	A'	526-575	147
48	名古屋市蓬左文庫	B'	712-749	65
55	陽明文庫	E	784-797	334
298	茨城県立歴史館	A	177-217	336
324	新潟大学附属図書館	B'	350-390	161
346	百々御所文庫	E	146-164	46
358	肥前松平文庫	A'	196-299	705
365	韓国国立中央図書館	D	224-249	268
t1	善通寺	A	250-278	223
u1	祐徳稲荷神社	A'	286-307	489
				3,020

b. 和古書・明治期資料の整理

- ・和古書の装備 1,828冊
- ・明治期資料の装備 948冊
- ・和古書目録書誌データ作成（登録） 3,173点
- ・明治期資料の書誌データ作成（登録） 235点

c. 活字本・影印本の装備・目録作成 1,179冊

d. 歴史関係図書・逐次刊行物の遡及入力

旧史料館所蔵の図書・逐次刊行物の目録遡及入力を継続して行っている。図書は3年間で全体約80,000冊のうち33,175冊がOPACで検索可能になった。逐次刊行物は国文との重複所蔵タイトルの所蔵巻号の移動調整を開始し、約933タイトルの所蔵巻号の一本化をおこなった。

## 【資料の保存】

### (1) 概要

原形を尊重した保存・修復措置を継続的にしている。

### (2) 活動記録

#### ①文書・記録類の保存・修復処置

史料目録刊行済みのものについて、閲覧用ラベル貼付、中性紙封筒・帙・箱等への収納、状態調査記録作成、虫損・剥離箇所への部分修復処置等を行った（12,924点、「信濃国松代真田家文書」「信濃国松代伊勢町八田家文書」「武蔵国多摩郡和田村石坂家文書」）。

その他、必要に応じて別置分の組込、中性紙封筒・箱等への入替、部分修復処置等を行った（800点、「越中国新川郡吉島村新保家文書」「摂津国大坂玉水町加嶋屋長田家文書」ほか）。

#### ②古典籍原本の保存・修復処置

##### a. 新収資料の害虫処理

新規受入資料は窒素発生装置および脱酸素剤を使用した殺虫処理を行っている

##### b. 補修

虫損が著しく閲覧・撮影が困難な高乗勲文庫の『雲霞集』ほか9点10冊を補修専門家に依頼した。

## 【利用者サービス】

### (1) 概要

#### ①所蔵資料のデジタル化

平成23～24年度のデジタル化の特別予算、平成25年度に計上された日本語の歴史的典籍のデータベース構築計画準備経費により所蔵原本のデジタル化と他機関原本のマイクロ収集分のデジタル化を推進している。

平成25年度は、貴重資料及び原本のデジタル撮影約1,500点を行った。

#### ②インターネットでの画像公開

現在、所蔵和古書の貴重書・特別コレクション・一般和古書約9,000点を公開している。また、収集マイクロフィルムは、20文庫約21,000点が公開済みである。

#### ③利用者検索用端末、複写機の更新

利用者検索用端末12台及び複写機4台（代行複写用1台を含む）を更新した。

## (2) 活動記録

## ①資料の閲覧及び複写

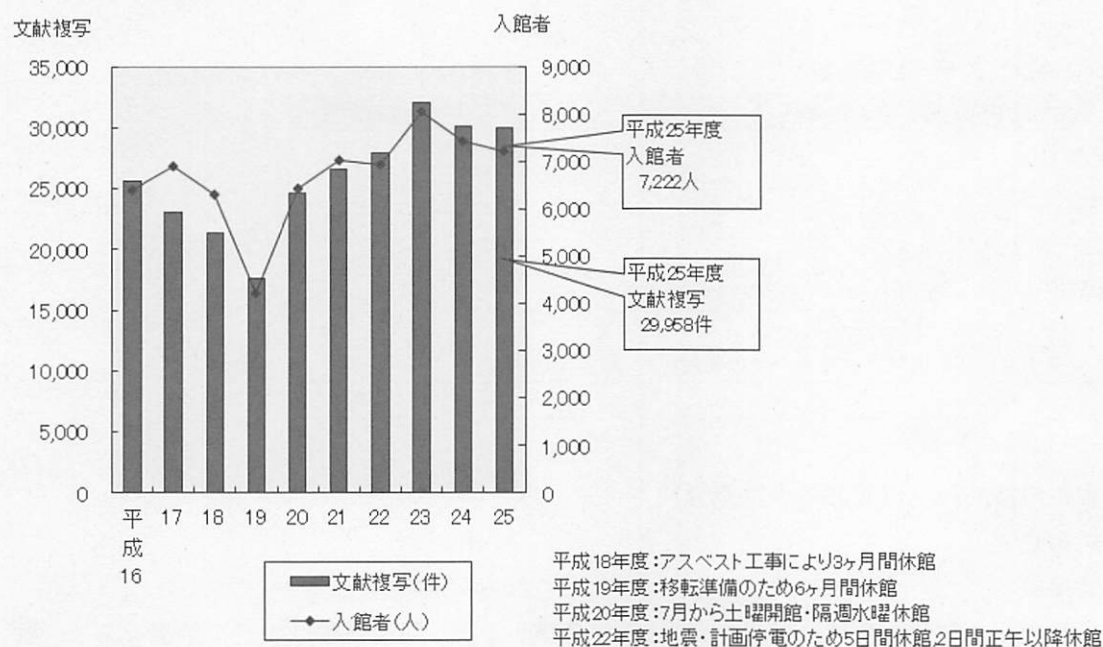
平成25年度の開館日数は250日、新規登録者は1,219人、来館利用者数は7,222人で、前年に比べれば微減ではあるが、順調に利用されている。

閉架資料の利用状況をみると、逐次刊行物と活字本・影印本の利用が増加している。

資料4 来館利用者の構成

利用者内訳	平成25年度
学生	2,334
大学院生	1,107
大学教員	1,219
小中高等学校教員	255
調査研究機関等研究員	253
地方自治体職員	104
その他（館外者）	1,950
総計	7,222

参考資料 来館利用数比較



資料5 資料出納件数

項目	平成25年度
逐次刊行物	1,708
活字本・影印本	2,939
和古書	430
ポジフィルム	1,540
紙焼写真本	1,757
史料	21,381
紙焼写真本一夜貸	25
合計	29,780

## ②相互協力サービス

文献複写受付は平成24年度より大幅に増加した。他館との比較では、ILL文献複写受付件数は、受付をした参加組織1,197館中18位(平成24年度32位)であり、資料の共同利用に貢献している。また、現物貸借受付は、58件、うち図書54件、紙焼写真本4件であった。

資料6 相互協力件数

項目		受付		依頼
閲覧	紹介状	-		30件
貸借	図書	54件、55冊		13件、13冊
	紙焼写真本	4件、4冊		
複写	電子複写	3,108件	26,231枚	68件
	RPによる電子複写	660件	49,264枚	
	フィルム複製	5件	4,970コマ	0件
	紙焼作製	-	-	-
	合計	3,773件	80,465枚	68件

## ③レファレンスサービス

日本文学・歴史資料分野のレファレンスサービスを継続しておこなった。

資料7 レファレンスサービス件数

質問の種類		平成25年度
文書による質問		57
メールによる質問	総合窓口システムへの質問	76
	問い合わせメール	241
電話による質問	所蔵調査	435
	利用についての問い合わせ	143
	内容調査	53
クイック・レファレンス(閲覧カウンターでの質問)		936
合 計		1,941

## ④掲載許可申請受付(平成25年度決裁分)

- ・翻刻掲載 17件
- ・写真掲載 209件

写真掲載のうち数種の要件に該当した116件は無償、また、翻刻掲載はすべて無償である。所蔵資料のデジタル公開の進捗に伴い、写真掲載の依頼が徐々に増加している。

## ⑤資料の展示貸付(展示開始が平成25年度のもの) 10件

## 資料8 展示貸付一覧

主催者名	展示会名	展示期間	資料名	件数
山梨県立博物館・新潟県立歴史博物館	山梨県立博物館・新潟県立歴史博物館企画展「黄金の国々」展（うち新潟県立歴史博物館での新潟展）	平成25年4月～5月	「開山国師真前奉物子母銭帳（山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書）」（26N/8）	1
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	第20回企画展「戦国のまなびや～朝倉文化 文武を極める～」	平成25年9月～11月	「詠歌之大概（特別コレクション・久松潜一旧蔵書）」（11-111），「秋十五番歌合」（ア2-14-20）	2
公益財団法人 五島美術館	特別展「光悦－桃山の古典－」	平成25年10月～11月	「嵯峨本 方丈記」（99-168）	1
ミュージアム都留（都留市教育委員会）	ミュージアム都留特別展「甲斐絹展」	平成25年9月～10月	「和漢三才図会」（マ3-1），「日本永代蔵」（89-323），「世間胸算用」（ナ4-324），「好色一代男」（ニ4-161）	4
人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	企画展示「中世の古文書－機能と形－」	平成25年10月～12月	「多賀宗之閣下出品 戦場ニ於ケル諸告示集帖」（多賀宗之文書）	1
茨城県立歴史館	平成25年度特別展「常陸南北朝史－そして、動乱の中世へ－」	平成27年2月～3月	「岩間御領分村々宛絵図 天明8年（常陸国土浦土屋家文書）」（29D/1104），「岩間愛宕山之絵図（常陸国土浦土屋家文書）」（29D/1109）	2
練馬区立石神井公園ふるさと文化館	「江戸の食文化」展（平成25年度第2回特別展）	平成26年1月～3月	「日本実業史博物館準備室旧蔵資料 看板10点」（37TF/74/197, 196, 185, 89, 121, 65, 1, 3, 142, 157）	10
館山市立博物館	特別展「安房の干鰯－いわしと暮らす、いわしでつながる－」	平成26年3月～5月	「製塩并べ粕図解（祭魚洞文庫旧蔵水産資料）」（23Z1/210），「房総水産図誌（祭魚洞文庫旧蔵水産資料）」（23Z1/635）	2
土浦市立博物館	第35回特別展「幕末動乱－開国から攘夷へ－」	平成26年3月～5月	「鶴飼吉左衛門書状写（常陸国土浦大久保家文書）」（43B/150），「梅田源次郎書状写（常陸国土浦大久保家文書）」（43B/144），「土屋寅直書状下書（常陸国土浦土屋家文書）」（29D/1926）	3
人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	平成25年度企画展示「歴史にみる震災」	平成26年3月～5月	「岩手県昭和震災誌 於昭和八年三月三日」（212.2:J3） 「宮城縣昭和震囂誌」（212.3:J1）	2

## ⑥蔵書点検

平成24年度より4年計画で、全蔵書の蔵書点検に取り組んでおり、2年目に当たる平成25年度は、長年実施していなかった書庫配置資料の点検を開始した。

## 【古典籍総合目録事業】

## (1) 概要

『国書総目録』（岩波書店刊）を継承発展させるものとして、古典籍総合目録作成事業を行っている。現在、所蔵和古書・マイクロ／デジタル資料目録データベースを含めた「日本古典籍総合目録」データベースを公開し、古典籍の書誌・所在情報を、著作及び著者の典拠情報とともに広く提供している。



## (2) 活動記録

下記のとおりデータ作成等を実施した。

①データソースの収集、所蔵者との連絡（書誌情報の古典籍総合目録データベース収載公開についての依頼等）

②書誌データの作成（登録） 約7,598件

資料9 古典籍総合目録データの作成 所蔵者・目録一覧

所蔵者	コレクション	目録	データ数
神戸大学附属図書館	住田文庫	住田文庫目録	54
斎宮歴史博物館		斎宮歴史博物館 館蔵資料目録	135
登米市教育委員会	寿庵文庫	寿庵文庫目録	617
東京大学文学部国文学研究室		東京大学国文学研究室所蔵古典籍目録	1,009
東京家政学院大学図書館	大江文庫	東京家政学院大学附属図書館 吉井始子寄贈図書目録	458
豊橋市図書館		豊橋市立図書館所蔵和装本目録	638
関西大学図書館	長澤文庫	長澤文庫検索システム	1,853
関西大学図書館	本山コレクション	関大蔵書検索（KOARA）	110
鯖江市まなべの館	進徳館旧蔵本	斯道文庫論集第41輯 鯖江市資料館和漢書目録	103
長野県立歴史館	丸山文庫	丸山文庫典籍目録	599
長野県立歴史館	丸山文庫	丸山文庫古文書之部	320
慶応義塾大学図書館 三田メディアセンター	高橋箒庵文庫	慶応義塾大学図書館蔵高橋箒庵文庫目録	418
山梨県立博物館	甲州文庫	甲州文庫目録データ	49
富山市立図書館	山田孝雄文庫	山田孝雄文庫	158
同朋大学仏教文化研究所	聖運寺寄贈本ほか	同朋大学佛教文化研究所蔵古書目録 （同朋大学佛教文化研究所紀要第16号掲載）	261
同朋大学仏教文化研究所	聖運寺寄贈本ほか	同朋大学佛教文化研究所蔵古書目録 （同朋大学佛教文化研究所紀要第17号掲載）	293
東北福祉大学図書館		東北福祉大学図書館所蔵和漢書目録	397
フリーア美術館	ゲハルト・ブルヴェラー 日本絵本コレクション	フリーア美術館ゲルハルト・ブルヴェラー 日本絵本コレクション目録稿（調査研究報告 33号別冊）	126
合計			7,598

### ①基礎データ（典拠データ）の追加・改訂

日常的に生じる追加・改訂のほか、当館基礎データの参照がNACSIS-CATの規則に盛り込まれたことなどにより、NACSIS-CATを含む外部からの基礎データに関わる質問や改訂への要望が寄せられた。その各々について内容を厳しく検討した後、データの追加・改訂などの対応を行った。

## 【電子化推進事業】

### (1) 概要

古典籍業務用データベースの改修を行った。平成25年度は、データー一括登録のための書誌表バッチ登録機能の開発を行った。本開発の運用開始により、データ入力及び公開作業の効率向上が期待できる。

## (2) 活動記録

## ① システム維持・更新

- a. 画像公開システムの表示速度を向上させるため、画像公開方式の変更を行った。
- b. 業務データベース（マイクロ目録・館蔵和古書目録・古典籍総合目録で共用）の開発を前年度に引き続き行った。
- c. 所蔵和古書・マイクロ／デジタル目録データベースにおいて、書名一覧表示システムの構築を行った。
- d. 古典籍総合目録データベースおよび所蔵和古書・マイクロ／デジタル目録データベースにおいて、異体字による検索に対応するための改良を行った。

## ② デジタル画像公開

- a. 所蔵和古書、収集マイクロのデジタル化の支援
- b. 収蔵歴史アーカイブズデータベースほか画像公開の支援

資料10 主な画像公開データベース

所蔵和古書・マイクロ／デジタル目録データベース	館蔵和古書画像 収集マイクロ画像 (デジタル収集を含む)	約 9,000件 約21,000件
収蔵歴史アーカイブズデータベース		約 1,300件
近代書誌・近代画像データベース		約 4,200件

資料11 古典籍デジタル画像閲覧統計（上位30件と総計）

書名（所蔵者，請求記号）	件数
白馬節会雨儀次第並雑例（書陵部，伏・260）	914
仏説一切如来金剛寿命陀羅尼經（普通寺，17-5）	557
落栗物語（書陵部，00-16）	441
絵本三国妖婦伝（広島大図，国文222 1 N）	429
一葉抄（書陵部，c 553 - 12）	426
尾張藩分限帳（盛岡公民，1275）	415
絵本通俗三国志（広島大図，大国2372）	408
庚子道の記（書陵部，黒 - 62）	392
難波戦記大全（函館図，1061／368／5001）	383
とはすかたり（書陵部，154 - 58）	369
板坂卜斎覚書（酒田光丘，2651）	338
一休譚後編／画本うす紫（広島大図，大国2300）	336
洛陽名所集（国文研貴重書，99-55-1～12）	331
江戸惣鹿子名所大全（祐徳稲荷中川，10／13／3531. 別1）	327
簗簗内伝金鳥玉兎集（矢口米三，386）	322
八種画譜（祐徳稲荷中川，9／3／18. 別10）	321
保暦間記（酒田光丘，2594）	309
琴後集（肥前松平文庫，117 - 10）	308
絵本忠臣蔵（広島大図，国文5312 N）	307
播磨鑑（大和文庫，7 5835～45）	301
佐賀諸士系譜（祐徳稲荷中川，1／9／90. 別1）	301
絵本石山軍記（広島大図，大国2402）	300
不動護摩次第私記（普通寺，6-7）	297
絵本朝鮮征伐記（広島大図，大国2403）	296
奇異雑談集（肥前松平文庫，115-17）	293
源氏物語（国文研貴重書，99-165-1～16）	287

八百屋お七／絵本胡蝶夢（広島大図，大国2606）	285
大和物語抄（矢口米三，955）	284
品物圖，萬葉集古義註釋目錄，玉蜻考，萬葉集枕詞解，萬葉集名處考，万葉集品物解，永言格，結詞例，鉞囊，舒言三轉例，用言變格例，雅言成法，言靈徳用，萬葉集人物傳，古言譯通，古言譯通目次，萬葉集名處國分，坐知佳境附録，萬葉集古義總論，萬葉集古義（嵯陵部，454・2）	277
辨財天法，大黒天法，大黒天神一時千座之大事，荒神供，勝軍地藏法，求聞持表白神分等，求聞持法，招魂法，能延六月法（善通寺，7 - 74）	275
総 計	1, 176, 451 (前年度89, 680)

※作品単位リクエスト件数を集計



## 4. 学術企画連携部

## i) 国際交流室

## 【第37回国際日本文学研究集会】

日 程：11月30日(土)・12月1日(日)

場 所：国文学研究資料館大会議室

主 催：国文学研究資料館

目 的：国内外の日本文学研究者の交流を深め、また、外国人の若手日本文学研究者の育成をも視野に入れ、日本文学研究の発展を図るため、毎年秋に開催している。

参加者：133名（外国人39名、日本人94名）

\*研究発表者等は、一般応募者の中から国際日本文学研究集会委員会の決定に基づき、主として若手研究者を対象として選考した。

\*発表時間が25分の研究発表、発表時間が15分のショートセッション及び資料掲示による説明コーナーでの発表（ポスターセッション）を設けている。

\*研究発表11本、ショートセッション4本、ポスターセッション6本が行われた。

\*従来実施していた講演の替わりに、2日目（12月1日）の午後、海外からパネラーを2名招聘しシンポジウム「テキスト・ジェンダー・文体—日本文学が翻訳されるとき—」を実施した。

## 【国際シンポジウム等の開催】

## (1) 日本古典籍（くずし字）講習会

日 程：①6月5日～6月7日、②3月24日～3月26日

場 所：①ボン大学（ドイツ連邦共和国）、②オクスフォード大学（イギリス）

主 催：国文学研究資料館

共 催：日本関係資料専門家欧州協会（EAJRS）

目 的：日本学資料専門ライブラリアンやキュレーター、学生、研究者を対象に、ヨーロッパの全国各地の機関が現地主催機関として開催する。講師は当館教員が日本語で行い、年1～2回開催する。

## [参考]

上記のほか、科学研究費等により当館教員が主導又は深く関与している国際研究集会等は次のとおりである。また、教員個々の海外の国際学会への参加（講演・研究発表を含む）も多い。

①7月31日に韓国国立中央図書館（大韓民国）において、韓国国立中央図書館との共催で第4回日韓古典籍研究交流会を開催した。

②9月9日～14日にライデン大学図書館（オランダ王国）において、国際共同研究に伴う資料調査を人間文化研究機構の日本関連在外資料国際共同研究で行った。

③9月13日～20日にバチカン図書館（バチカン帝国）において、マレガ文書の調査打ち合わせを実施した。

④10月14日～15日にストラスブール大学（フランス共和国）において、人間文化研究機構連携

研究「9-19世紀文書資料の多元的複眼的比較研究」により、「中世後期私文書の公証—ヨーロッパと日本—」というテーマで国際シンポジウムを開催した。

- ⑤ 1月11日に国文学研究資料館において、国際連携研究「日本文学のフォーラム」により、「もう一つの室町—女・語り・占い—」というテーマで国際シンポジウムを開催した。
- ⑥ 1月24日～26日に国文学研究資料館及び印刷博物館において、日韓古典籍研究交流会「古典籍が結ぶ日本と韓国」を開催した。
- ⑦ 2月17～21日にバチカン図書館（バチカン帝国）において、マレガ文書の調査打ち合わせを実施した。
- ⑧ 3月8日～9日にスタンフォード大学（アメリカ）において、和歌文学ワークショップ「日本歌論の一千年—古代から江戸までの歌論の展開（Poetic Teachings in Premodern Japan: Aesthetics and Practice from the Eighth to Eighteenth Centuries）」に、当館の外国人研究員であるペルシアーニ客員准教授が「万葉集以降の歌風の展開—藤原公任の『和歌九品』を読む」の研究発表を行った。
- ⑨ 3月26日～27日にフィラデルフィアにおいて、東アジア図書館協議会の年会議に参加。情報交換を行った。

#### 【外国人研究員の招聘】

ジャン・ピエロ・ペルシアーニ氏

所属・職名：オックスフォード大学・東洋学部・准教授

期 間：平成25年9月15日～平成26年3月14日

研究内容：平安時代における漢文学の受容・三十六歌仙の受容史

上記の他、外来研究員として趙俊槐氏（北京外国語大学日本学研究センター・日本古典文学博士課程後期）、李忠濤氏（高麗大学校日本研究センター・HK研究教授）、パトリック・シュウエマー氏（プリンストン大学大学院比較文学科博士課程）を受け入れ、前年度に引き続きスミス・クリストファー氏（ハワイ大学マノア校日本文学部研究生助教）を受け入れた。

また、英国芸術・人文リサーチカウンスル（AHRC）と人間文化研究機構の協定に基づき、アンドリュー・ホーウェン氏（University of Reading）を受入れた。

#### 【学術交流協定による国際交流】

- (1) ブリティッシュ・コロンビア大学と新規に学術交流協定を締結（3月14日）。
- (2) 高麗大学校との協定に基づき、韓国国立中央図書館において古典籍を通じての国際交流を実施した。
- (3) 北京外国語大学日本学研究センターとの学術交流協定に基づき外来研究員として1名受け入れた。また、高麗大学校との学術交流協定に基づき外来研究員として1名受け入れた。
- (4) コロンビア大学との協定に基づき、国際連携研究「日本文学のフォーラム」で開催した第1回国際シンポジウムに講師として1名招聘した。
- (5) 北京外国語大学日本学研究センターで開催されたシンポジウム「女性・文学・仏教」で講演。
- (6) コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所での、同研究所に於ける日本学研究の動向についての意見交換。
- (7) ライデン大学図書館でシーボルト関係日本古典籍の共同調査。

## ii) 展示企画室

### 【展 示】

#### (1) 常設展示「和書のさまざま」

概 要：和書について、形態的・内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色のある本を紹介した(これまで定期的に実施していた通常展示の内容をリニューアルし、今年度より常設展示として開始した)。

また、この常設展示の一部のスペースに特設コーナーを設け、定期的に展示替えを行いながら、様々なテーマで展示を行った。

日 程：平成25年4月1日(月)～平成25年8月30日(金) 106日間

平成25年11月7日(木)～平成26年3月31日(月) 94日間

※土曜・日曜・国民の祝日・振替休日・年末年始(12月28日～1月5日)は休室

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館

鑑賞者：3,974名(※11月30日(土)国際日本文学研究集会、及び1月11日(土)国際シンポジウム開催時特別開室の人数を含む)

#### (2) 企画展示「渋沢敬三からのメッセージ 渋沢栄一「青淵翁記念室」の復元×渋沢敬三の夢みた世界」

概 要：渋沢敬三が構想した日本実業史博物館(略称：実博)における「渋沢青淵翁記念室」資料のデータベース構築による成果を基に、渋沢史料館との連携研究を実施し、渋沢栄一の「青淵翁記念室」を復元した。また、渋沢敬三が抱いていた“回遊展示”構想を表現した企画もあわせて紹介した。

日 程：平成25年9月13日(金)～10月14日(月) 24日間

※日曜・月曜は休室

※10月13日(日)及び14日(月・祝)は開室

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館

共 催：渋沢敬三記念事業実行委員会、公益財団法人渋沢栄一記念財団、立川市教育委員会、狛江市教育委員会、国土交通省国営昭和記念公園事務所

後 援：立川観光協会

鑑賞者：952名

#### (3) 企画展示「周流する記録ー長野で発見された台湾の古文書ー」

概 要：長野県中野市の旧家で調査中に発見された台湾文書(19世紀清朝時代に書かれた地方役所の文書で、現存数が少ない希少な史料)を修復・復元し、紹介した。

日 程：平成25年10月18日(金)～10月22日(火) 5日間

※休室日なし

場 所：当館展示室

主 催：国文学研究資料館

共 催：公益財団法人渋沢栄一記念財団、長野県中野市

鑑賞者：476名(10月23日(水)連続講座受講生を対象とした特別開室の人数を含む)

#### (4) 常設展示 特設コーナー

##### ①源氏物語／源氏小鏡

概要：光源氏の生涯を軸に多様な女性群像の内面を見事に描き出した王朝物語の代表作である「源氏物語」及び源氏物語の梗概書である「源氏小鏡」を展示した。

日程：平成25年4月1日(月)～平成25年5月29日(水) 40日間

##### ②蜻蛉日記

概要：平安時代中期、藤原兼家の妾、道綱母の仮名日記であり、上中下3巻からなる「蜻蛉日記」をテーマに展示した。

日程：平成25年5月30日(木)～平成25年7月30日(火) 43日間

##### ③三十六歌仙

概要：「嵯峨本三十六歌仙」「〈光／悦〉歌仙大和抄(外題)」「歌仙大和抄」「三十六歌仙帖」の4つの資料を展示した。

日程：平成25年7月31日(水)～平成25年8月30日(金) 23日間

##### ④源氏物語

概要：11月1日の「古典の日」にあわせて、当館が所蔵する『源氏物語』の古写本、注釈書、団扇絵、翻案物等の貴重な資料を展示した。

日程：平成25年11月7日(木)～平成25年12月4日(水) 20日間

##### ⑤帝王学の教科書『帝鑑図説』

概要：当館に所蔵されている『帝鑑図説』、慶安3年(1650)刊の和訳本と、安政5年(1858)刊の幕府官版の二種類を展示した。

日程：平成25年12月5日(木)～平成26年1月8日(水) 19日間

##### ⑥奈良絵本

概要：奈良絵本とは、濃彩色の挿絵入り写本のことで、冊子形態のものばかりでなく、絵巻もそう呼ばれることがある。この奈良絵本をテーマに当館所蔵資料を展示した。

日程：平成26年1月9日(木)～平成26年1月30日(木) 15日間

##### ⑦典籍としての古写経

概要：比較的早い時期の書写にかかる紙本墨書の天平写経の遺例として、光明皇后発願五月一日経、行信願経、永恩具経の三点を、特殊な形態を示す装飾経の遺例として、二月堂焼経、太秦切、中尊寺経、三千仏名経を展示した。

日程：平成26年1月31日(金)～平成26年2月25日(火) 17日間

##### ⑧新資料写本『栄花物語』

概要：『栄花物語』をテーマに北村季吟が書き写したと思われる写本及び版下を作成したと思われる版本を展示した。

日程：平成26年2月26日(水)～平成26年3月31日(月) 23日間

#### iii) 広報出版室

##### 【講座・講演会関係】

##### (1) 連続講座

平成24年度から日本文学の普及のため「くずし字を読む講座」を開催している。今年度も昨年度に引き続き、当館今西祐一郎館長による「くずし字で読む『源氏物語』」講座を開催した。

名称：平成25年度連続講座

テーマ：くずし字で読む『源氏物語』

講師：今西祐一郎（当館館長）

日程：10月2日（水）、10月9日（水）、10月23日（水）、11月6日（水） 14時00分～15時30分

※当初は10月16日も予定されていたが、台風の為中止となった。

第1回 10月2日 102名

第2回 10月9日 97名

第3回 10月23日 95名

第4回 11月6日 86名

場所：当館2階大会議室

参加者数：380名（延べ）

## (2)「古典の日」講演会

11月1日が「古典の日」と法制化されたことを記念し、昨年度から開催している。今年度は会場を館外へ移し、作家・国文学者・書誌学者の林望氏と、当館の山下則子教授が講師を担当して開催した。

名称：平成25年度国文学研究資料館「古典の日」講演会

講師：「〈風流・やつし〉と〈見立て〉－浮世絵を中心に－」山下則子（当館研究部教授）

「源氏物語を読むこと、訳すこと」林 望（作家、国文学者、書誌学者）

日程：11月1日（金） 13時30分～16時00分

場所：ベルサール神田

参加者数：323名

## 【アーカイブズ・カレッジ】

多様な史資料を取扱う専門的人材を養成するため、長期コース・短期コースをそれぞれ年1回開催した。

長期コースは、前期7月22日（月）から4週間、後期8月26日（月）から4週間の日程で国文学研究資料館において開催し、32名（うち4名は特別聴講）が受講した。受講者のうち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は12名、大学院生は20名であった。なお今年度、長期コースの全6科目を修了した22名に修了証書を授与した。短期コースは、11月11日（月）から22日（金）に遠野市立図書館の施設をお借りして開催し、28名が受講した。併せて、被災地の見学を行った。受講者のうち史料保存機関職員や大学教職員などの社会人は21名、大学院生は7名であった。

### (1) 長期コース

日程：7月22日（月）～8月16日（金）、8月26日（月）～9月20日（金）

場所：当館2階オリエンテーション室ほか

受講者：32名（うち4名は特別聴講）

### (2) 短期コース

日程：11月11日（月）～22日（金）

場所：遠野市立図書館ほか

受講者：28名

### 【日本古典籍講習会】

日本古典籍講習会は、日本古典籍の整理・目録化を促進し、広く活用されるよう環境の整備を図るため、書誌学の専門知識や整理方法の技術修得を目的として、各所蔵機関の図書館員等を対象に平成15年度から開始したもので、今年度で11回目である。今年度よりカリキュラム変更のため、平成26年1月21日(火)から24日(金)の4日間で開催し、最初の3日間は当館で、最終日は国立国会図書館を会場として行った。大学図書館等22名、公共図書館等10名、計32名が受講した。

日 程：1月21日(火)～24日(金)

場 所：当館2階大会議室、国立国会図書館

受講者：32名

### 【エフエムたちかわでの番組放送】

当館の活動を広報すると共に、多くの方に古典文学作品に親しんでいただくことを目的として、「エフエムたちかわ」での番組放送を平成24年度から開始した。今年度は当館教員が講師を担当し、平成25年4月～平成26年3月の間、毎週1回10分間の放送を行っている。

期 間：平成25年4月1日(月)～平成26年3月31日(月)

放送時間：毎週木曜 10:50～11:00 (10分間番組)

講 師：当館教員13名 (1ヶ月ごとに交代で番組収録を担当。3月のみ1週ごとに交代。)

内 容：百人一首に関する話

### 【出版関係】

#### (1) 平成25年度国文学研究資料館紀要の発行

当館教員の研究成果の社会への還元の一環として、年度毎に研究紀要を発行している。

平成25年度は、文学研究篇第40号、アーカイブズ研究篇第10号を刊行した。

#### (2) 研究成果刊行促進制度の実施

当館の研究成果の社会への還元の一環として、研究成果の出版を希望する当館の共同研究に対して、内容等を審査の上で、出版に要する経費の一部を当館が負担し、出版物の刊行を促進することを目的として実施している。

平成25年度は3件の申請があり、広報出版室において、外部委員を含めた審査会を組織し、審査した結果、3件の申請を採択し、本制度を適用することとした。

#### (3) 国文研ニュースの発行

当館の広報記事や研究内容を紹介する定期刊行物として年に4回発行している。

平成25年度は、31号～34号の4冊を発行し、関係機関等に配布するとともに、催事実施の際に来館者に配布した。

#### (4) 概要の作成

平成25年度の当館概要を作成した。

#### (5) リーフレットの作成

最新の内容にしたものを作成した。

【広報関係】

(1) Webページでの広報活動

当館のWebページを通じて、催し物等の広報を行った。また、平成26年度から本格稼働させる予定の大型プロジェクト「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に関するページを新たに作成した。

(2) 多摩モノレール「高松駅」での広報活動

平成22年8月より、多摩モノレール「高松駅」改札内の広報用展示スペースを借用し、当館の広報スペースとして概要等の展示を実施している。なお、平成26年度は展示内容を更新する予定である。

(3) カレンダーの作成

当館の平成26年用カレンダーを作成し、関係機関等へ配布した。

(4) 広報グッズの作成

一筆箋（3種類）を作成した。

## 古典籍データベース研究事業センター

### 【概 要】

日本学術会議の学術の大規模研究計画（マスタープラン）としてリストアップされた「日本語の歴史的典籍のデータベースの構築」推進のため、平成25年4月に古典籍データベース研究事業センターを設置した。

今年度は、準備経費としての予算が措置されたことを受け、本格的な事業開始へ向けて関係機関との打合せ等準備を進めた。

### 1. 体制整備

#### (1) 古典籍データベース研究事業センターの設置

計画推進のための組織として、平成25年4月1日に「古典籍データベース研究事業センター」を設置し、センター長以下、研究組織として、特任教授1名、准教授1名、プロジェクト研究員2名を、また、事務組織としてセンター事務室を置いた。また、センター長の求めに応じてセンターの業務に関し総合的見地から助言等を行う立場として顧問を置いた。

#### (2) 各種委員会の設置

センターに、次の委員会を設置し、学識経験者や研究者コミュニティの意見を踏まえ、本格実施へ向けた検討を行った。

- ・ 日本語歴史的典籍データベース委員会  
運営に関する助言、事業計画に関するモニタリング等
- ・ 事業実施委員会  
センターの管理運営に関する重要事項の審議
- ・ 広報・国際連携委員会  
センター事業の周知、海外機関との連携等に関する事項の審議
- ・ 拠点連携委員会  
国内拠点との連絡調整等に関する事項の審議

### 2. 他機関との連携

歴史的典籍を多数保有する国内の20大学を「国内拠点」として位置付け、連携して事業を推進することとした。

また、すでに当館と学術交流協定を締結している大学等を「国外拠点」として位置付け、国際的なネットワーク構築へ向けて協力することとなった。

○国内拠点：北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、奈良女子大学、広島大学、九州大学、慶應義塾大学、國學院大學、立教大学、早稲田大学、大谷大学、同志社大学、立命館大学、関西大学

○国外拠点：コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所、コロンビア大学、高麗大学校、フィ



レンツェ大学、北京外国語大学、ライデン大学、ヴェネツィア国立大学、ナポリ大学、サピエンツァ・ローマ大学、パチカン市国図書館、ブリティッシュ・コロンビア大学、ケンブリッジ大学

このほか、人間文化研究機構内の国立歴史民俗博物館、国際日本文化研究センターとの連携を予定。

## 【活動記録】

### 1. 資料の撮影・デジタル化と公開

当館は、平成23年度と24年度に、館蔵資料と所蔵マイクロフィルムのデジタル化推進のための運営費交付金特別経費を受け、デジタル化事業を行ってきた。本計画はその事業を引き継ぐものでもあり、今年度は準備経費により引き続きデジタル化業務を実施した。

館蔵資料の撮影により1,563点・約31万コマ、マイクロフィルムからのデジタル変換により4,504点・約85万コマの画像作成を実施した。またデータベースへの公開作業として、館蔵和古書659点の画像、マイクロフィルムからのデジタル変換の画像9所蔵者・合計4,643点の公開を行った。

### 2. 撮影・デジタル化作業の効率化

「国立国会図書館デジタル化の手引」や他機関の仕様書を参照し、前年度まで使用していた仕様書を抜本的に見直した。また、実際のデジタル化業務における詳細なマニュアルも取りまとめ、仕様書本体とは別に「国文学研究資料館 資料電子化撮影の手引き」及び「国文学研究資料館所蔵マイクロフィルムからの電子画像データ作成仕様書（補足資料）」を作成し、業務の効率化と一律化を図った。

また、作成された画像データの確認作業について、従来はサンプル的に抽出した画像を目視により確認していたが、「カメラの機種」、「縦×横の幅」、「ビット数」、「カラーモード」等について仕様書との自動照合ができる「電子画像納品データの確認作業の一部自動化プログラム」を開発した。これにより画像全点を対象に画質の確認を短時間で行うことができ、画質確認の精度向上を図ることができた。今後、このプログラムを拠点大学に提供し、各拠点における作成画像の画質確認業務の平準化と効率化を図る予定。

### 3. 書誌データの整備

当館所蔵資料である三井文庫や鶴飼文庫の書誌データ、マイクロフィルム資料（宮内庁書陵部所蔵資料等）の書誌データに加え、典拠となる著作データ及び著者データを作成し、約4,000件の書誌データ整備を行った。

### 4. 他機関所蔵の資料調査・収集

研医会図書館所蔵資料の調査を行い、「新刊名方類證医書大全」ほか計43点・約9,000コマのデジタル撮影収集を実施した。また、弘前市立図書館において92点・約9,500コマの資料調査を行った。

### 5. 原本購入

今後のデータベース構築及び共同研究の広がりを見込み、当館が継続して購入してきた国

文学及び周辺領域に関する資料だけではなく、対象範囲を理学、医学分野等にも広げ、多領域に渡る原本149点を購入した。

## 6. データベースシステム構築に関する検討

平成29年度の歴史的典籍の大規模提供システム（第1期）の運用開始に向けて、国際共同ネットワークシステムの調達のため、館内にワーキンググループを設置した。10月から1月頃までに10回を越えるワーキンググループを開催し、データベースに必要な機能、インタフェース案などを検討した。また、今後のデータベース設計の参考とするため、このワーキンググループにおいて、現行データベースの使い勝手や今後付加してほしい機能等データベースの利用に関するアンケートを実施し、研究者・院生等約170名の回答を得ることができた。

また、当該システム構築に関する助言やサポートを行うコンサルタント会社と協同し、数回に渡る打合せを経て、機能要求仕様書を作成した。

さらに、情報分野の最新トピックスの動向について把握するため、外部講師を招き、3回の講演会を館内で開催した。

## 7. 画像内製化のための機材整備

画像作成内製化の可能性を探るため、ブックスキャナー及びデジタルカメラを購入し、画像内製化の実証試験に着手した。

## 8. 共同研究

事業の本格開始へ向けて、広報・国際連携委員会及び拠点連携委員会等での審議を踏まえ、共同研究の枠組みを以下の4カテゴリーに決定した。

### (1) 国際共同研究

海外の研究者を中心に日本文化を総合的に研究するテーマに取り組む、日本古典籍を広い視野から利活用する共同研究。幅広い研究者の国際学術交流により、古典籍を通じた日本再発見を目指す。平成27年度から開始予定。

### (2) 公募型共同研究

一般公募による共同研究。平成26年度から開始予定。

### (3) 拠点主導共同研究

国内拠点の研究者が研究代表者となり、拠点の研究者を中心に研究組織を構成して実施する共同研究。平成27年度から開始予定。

### (4) 機構内共同研究

人間文化研究機構内の国立歴史民俗博物館及び国際日本文化研究センターと連携して実施する共同研究。平成26年度から開始予定。

当館が主導する共同研究を平成26年度から開始することとし、当面3年間で実施するテーマを以下のとおり決定した。

#### [総合書物学]

- ・アジアの中の日本古典籍－医学・理学・農学書を中心として－（研究代表者 陳捷）
- ・日本古典籍の書誌概念と書誌用語の国際化（研究代表者 落合博志）
- ・日本古典籍コードの国際標準化（研究代表者 山本和明）

#### [書物の文化学的研究]

- ・表記の文化学－ひらがなとカタカナ－（研究代表者 入口敦志）

#### 9. 広報活動

本事業について広く周知を図るため、パンフレットを作成し、文部科学省情報ひろばや各種イベント等で配布を行った。また、当館ホームページからの情報発信等を行った。